

東京2020大会レガシーの評価と 可能性検討に関する国民アンケート 調査報告書

調査概要①

■ 調査目的

- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、東京2020大会)が実施されたことを踏まえ、国民の認識として何がレガシーとして生み出されたか等を評価し、その可能性を検討するため

■ 調査対象

- 全国16-69歳の男女3,000名
- 各年代×性別のサンプル構成比を厚生労働省人口動態調査(2019年10月1日)に合わせて回収

■ 調査時期

- 2021年11月

■ 調査方法

- WEBアンケート(三菱総合研究所「生活者市場予測システム(mif)」を利用)

調査概要②

■ 調査項目

I. 大会等全般について

1. 東京2020大会開催への賛否
2. 東京2020大会関連組織・人物への信頼度

II. 大会の影響(インパクト)と未来社会への貢献(レガシー)

1. 東京2020大会による自身や社会への影響(インパクト)
2. 「オリンピック・レガシー」に対する認識
3. 東京2020大会がレガシー創出のきっかけになったか

III. 将来に向けて

1. 今後実現を目指すべきレガシー
2. レガシー実現を目指すべき理由
3. 将来のスポーツ大会誘致・開催の賛否
4. スポーツ大会誘致・開催をする際に求める目的・条件

調査から得られた示唆(キーメッセージ)

- 東京2020大会開催への賛同(約7割)が得られた一方で、ポジティブなインパクトや未来社会に向けたレガシー創出に関する認識は萌芽的(提示した未来像に対して2~3割程度)
- 将来的な国際スポーツイベント誘致・開催に対して消極的(開催賛同者は2~3割程度)
- 今後の大規模スポーツ大会等に向けて、アスリート活躍の場づくりとともにハード・ソフトのレガシー活用、社会変革への貢献が重要
- 税金投入の最小化とESGR(環境・社会・ガバナンス・レジリエンス)への配慮の必要性

調査結果のポイント①

I. 大会等全般について

1. 東京2020大会開催への賛否

～7割弱が大会開催を肯定的に評価

- ▶ オリンピック、パラリンピックともに、「開催して良かった」が約3割、「どちらかといえば開催して良かった」が4割弱を占めた。【図表_6,7】
- ▶ 10代、新型コロナウイルス感染症の拡大でむしろ良い影響があった人、スポーツファン、大会に関わっていた人・観戦していた人において、大会開催肯定派が多い。【図表_8～12】

2. 東京2020大会関連組織・人物への信頼度

～アスリートに対する信頼度が6割を占めるのに対し、関連組織への評価は2～3割程度

- ▶ 信頼度を見ると、アスリートが6割であるのに対し、関連組織は2割～3割程度にとどまる。IOCを信頼している割合は18%。【図表_13】
- ▶ IOCへの信頼度は全般に低いが、特に、東京都居住者、東京2020大会開催否定派、新型コロナによる悪影響があった人で信頼度が低い。【図表_15～17】

調査結果のポイント②

II. 大会の影響(インパクト)と未来社会への貢献(レガシー)

1. 東京2020大会による自身や社会への影響

～多くの人は、東京2020大会はネガティブな影響を与えたと評価

- ▶東京2020大会が自身や社会に与えた影響を見ると、新型コロナ感染拡大のリスク増、開催経費の負担増等ネガティブな評価が多い。女性、60代でネガティブな評価が目立つ。【図表_18～20】
- ▶ポジティブな評価は、10代、スポーツファンにおいて、日本のイメージ・認知度向上、ナショナルアイデンティティ向上、快感情が相対的に多くあげられている。【図表_18,20,34】

2. 「オリンピック・レガシー」に対する認識

～「レガシー」の認知度は約5割。2017年以降、認知度は同水準で推移

- ▶オリンピック・レガシーという言葉について、「知っていた」のは19%、「聞いたことがある」を含めると48%。レガシーの理解度、認知度は2017年以降、ほぼ同水準で推移。【図表_45, 46】
- ▶50-60代、東京都居住者、大会開催肯定派、スポーツファンにおいて、レガシーの認知度が高い。【図表_47～50】

3. 東京2020大会がレガシー創出のきっかけになったか

～大会が未来社会に向けたレガシー創出の契機になったとする人は約3割にとどまる

- ▶東京2020大会が未来社会に向けたレガシー創出のきっかけになったとする人は、未来社会像として示した10項目すべてで2～3割程度にとどまる。その中でも、レガシー創出のきっかけになったという割合が最も高い社会像は「スポーツ・芸術文化が広く社会に浸透した社会」であった。他方、最も低い社会像は「地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会」であった。【図表_51】

調査結果のポイント③

Ⅲ. 将来に向けて

1. 今後実現を目指すべきレガシー

～実現を目指すべきレガシーは、安全、持続可能、健康、全員活躍、競技会場活用が上位

- ▶東京2020大会のレガシーとして今後実現を目指すべき社会として上位にあげられているのは、「世界で最も安全な社会」「持続可能性が高まった社会」「健康でアクティブに暮らせる社会」「全員が能力と個性を発揮し活躍する社会」「競技会場が大会後も有効に活用される社会」。【図表_52】
- ▶60代で健康、安全、大会開催肯定派でジャンクオリティやスポーツ・芸術文化の浸透が、レガシーを理解している人で、課題解決モデル提示、競技会場の有効活用、持続可能性が多くあげられている。【図表_53】

2. レガシー実現を目指すべき理由

～実現を目指すべき理由は、今後の日本社会にとって重要な変革であること

- ▶レガシー実現を目指すべき理由の1位は「今後の日本社会にとって重要な変革」であること。次いで、「自身の重視したい点と一致」「大会が良いきっかけを提供した」の順となった。【図表_54】

3. 将来のスポーツ大会誘致・開催の賛否

～今後のスポーツ大会開催賛成者は3～4割程度。居住地域への誘致賛成者は26%にとどまる

- ▶将来のスポーツ大会の開催賛成者は3～4割、居住地域への誘致賛成者は26%。【図表_55】
- ▶2030年札幌冬季大会については、誘致肯定者が多いのは、10代、東京2020大会開催肯定派、新型コロナウイルス感染症拡大でむしろ良い影響があった人、スポーツファンであった。【図表_56～60】

調査結果のポイント④

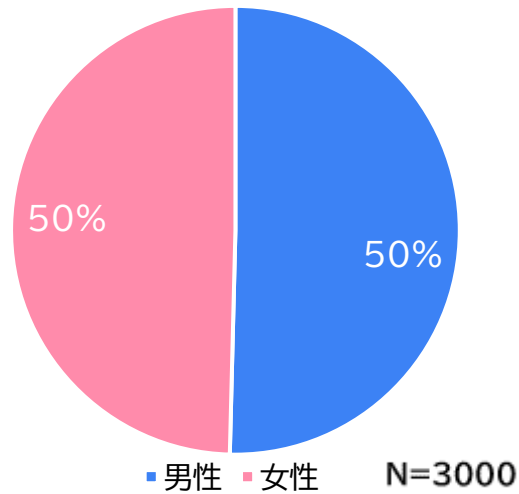
4.スポーツ大会誘致・開催をする際に求める目的・条件

～開催目的は「アスリートがパフォーマンスを披露する場」、開催条件は「投入する税金の最小化」

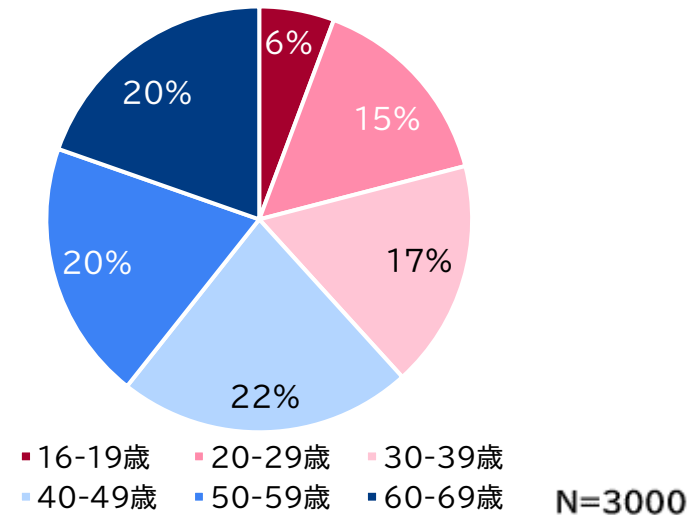
- ▶スポーツ大会の誘致・開催の目的としては「アスリートがパフォーマンスを披露する場を提供」が最も多く、ハード・ソフト両面でのレガシー活用や社会変革への貢献等も多い。開催条件としては「投入する税金の最小化」が最も多く、ESGR(環境・社会・ガバナンス・レジリエンス)への配慮も重視されている。【図表_61】
- ▶アスリートへの場の提供をあげる割合が高いのは、新型コロナウイルス感染症拡大でむしろ良い影響があった人、東京2020大会の開催賛成者、スポーツファン、レガシーを理解している人である。【図表_62～67】
- ▶投入する税金の最小化については、60代、東京2020大会開催否定派、レガシーを理解している人であげる割合が高い。【図表_68～73】

回答者の基本属性①

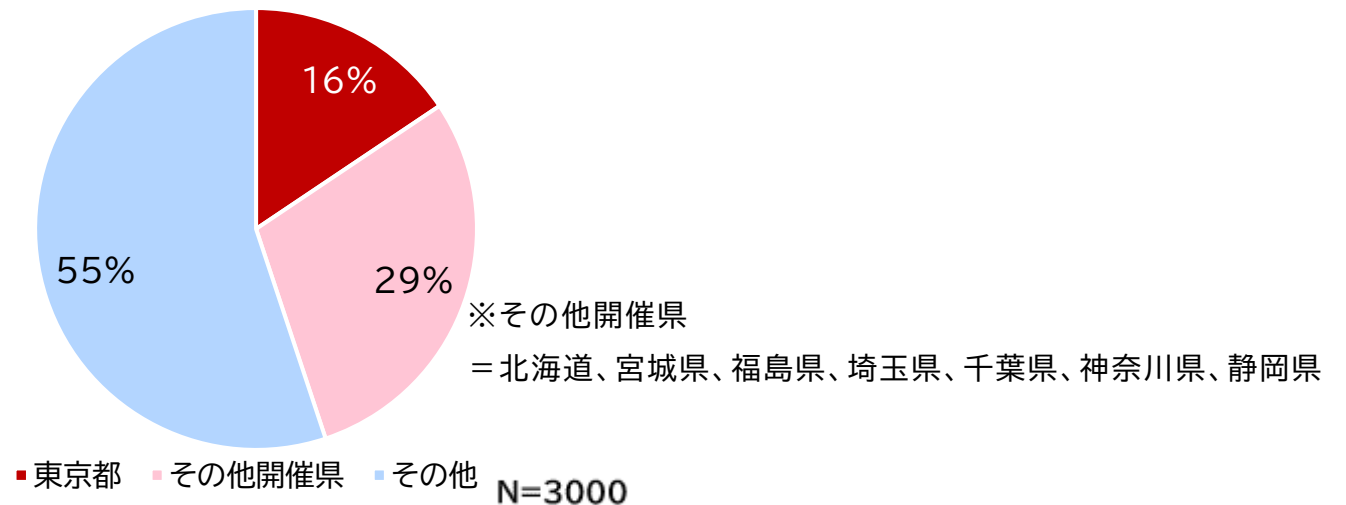
図表1_性別



図表2_年代

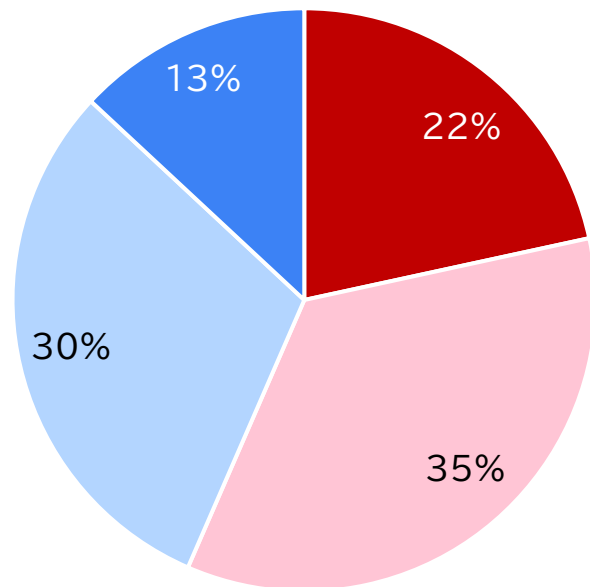


図表3_居住地



回答者の基本属性②

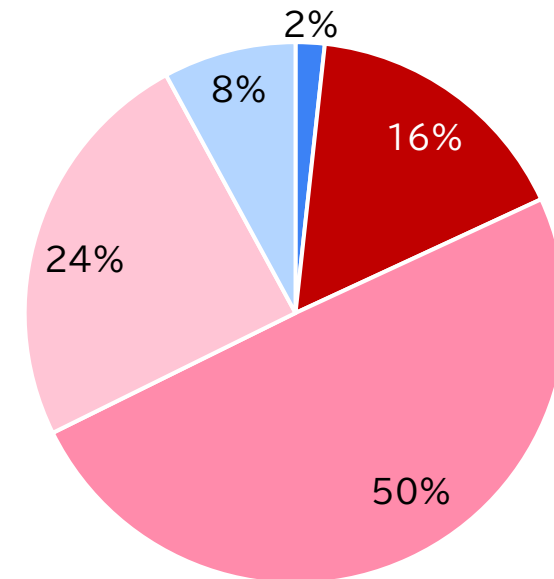
図表4__スポーツファン度



- スポーツファン度(高)
- スポーツファン度(中)
- スポーツファン度(低)
- 非スポーツファン

N=3000

図表5__新型コロナの影響(収入面)



- むしろ良い影響があった
- 全く悪影響はなかった
- あまり悪影響はなかった
- ある程度悪影響があった
- 深刻な悪影響があった

N=3000

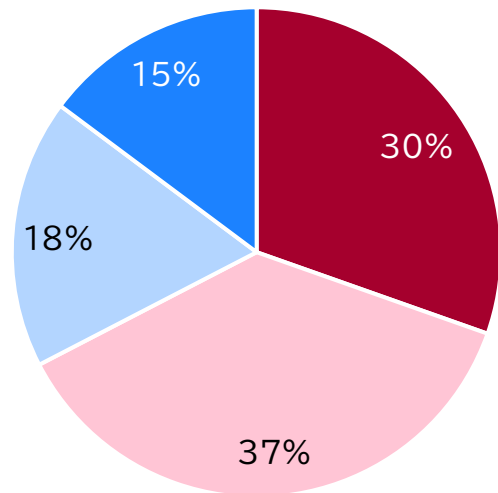
※日常的なスポーツニュースの視聴状況等の設問をもとに
スポーツファン度を設定

I. 大会等全般について

1. 東京2020大会開催への賛否①

- どちらかといえば開催して良かったとする人も含めると7割弱が大会開催を肯定

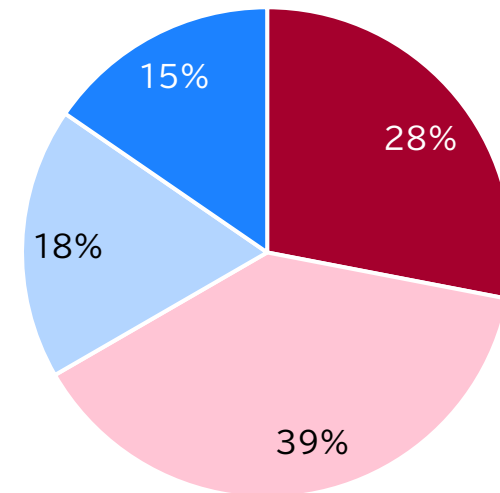
図表6__2020東京オリンピック競技大会の開催
評価



- 開催して良かった
- どちらかといえば開催して良かった
- どちらかといえば開催すべきではなかった
- 開催すべきではなかった

N=3000

図表7__2020東京パラリンピック競技大会の開催
評価



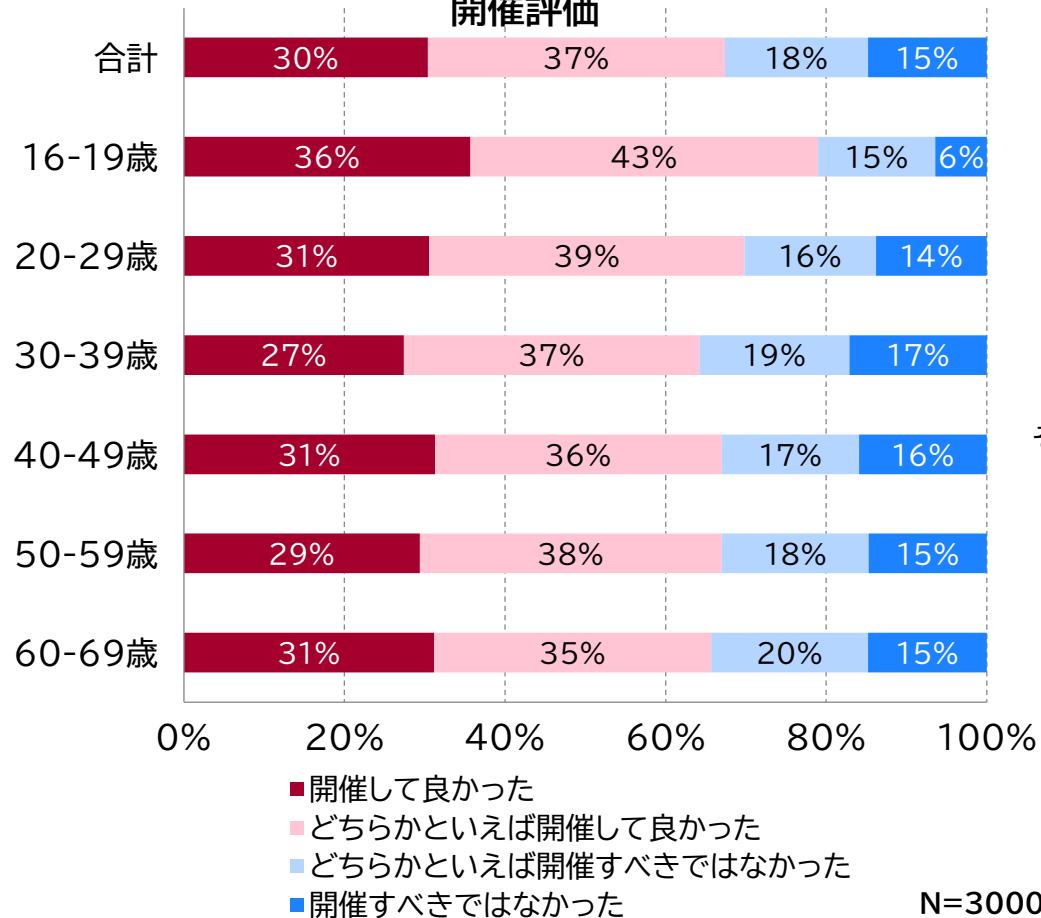
- 開催して良かった
- どちらかといえば開催して良かった
- どちらかといえば開催すべきではなかった
- 開催すべきではなかった

N=3000

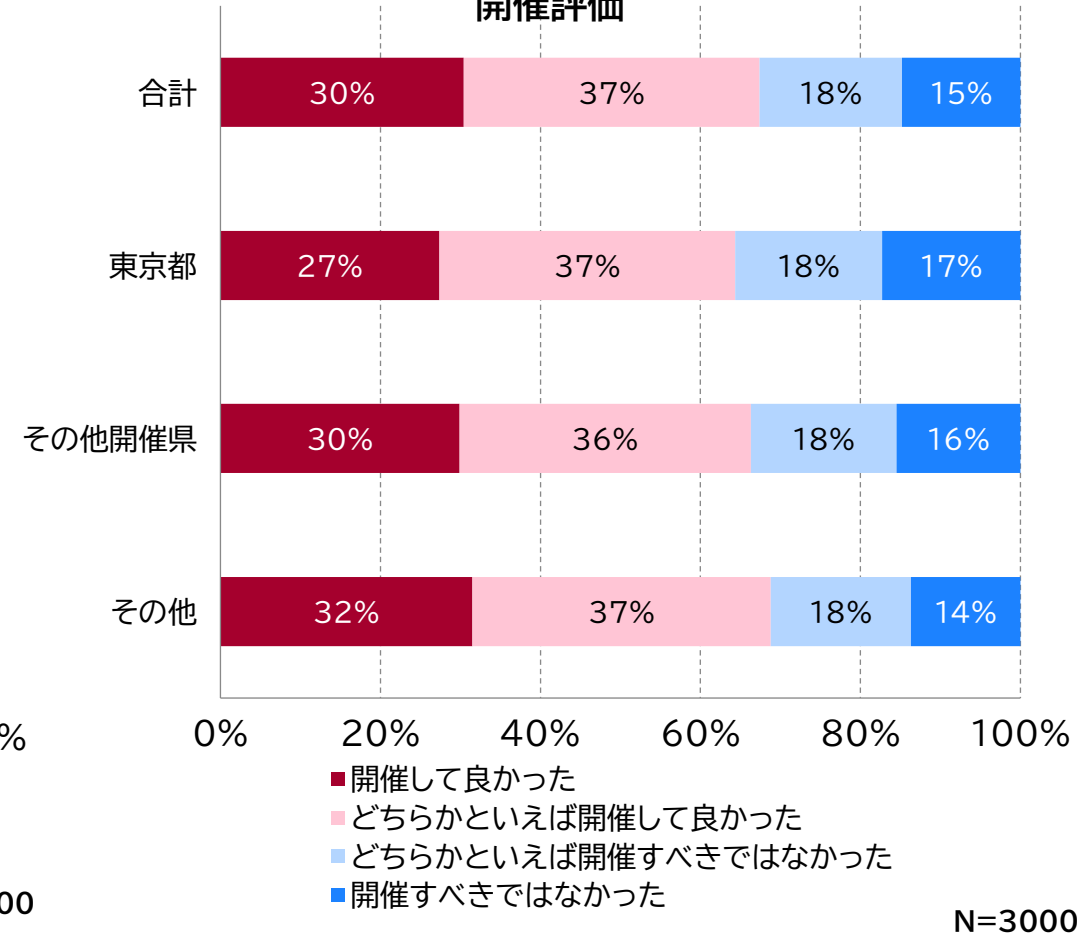
1. 東京2020大会開催への賛否②

- 年齢別に見ると、10代で大会を開催して良かったとする人がやや多い
- 大会開催の賛否は、居住地による著しい差は見られない

図表8_年代×東京2020大会(オリンピック)の開催評価



図表9_居住地×東京2020大会(オリンピック)の開催評価

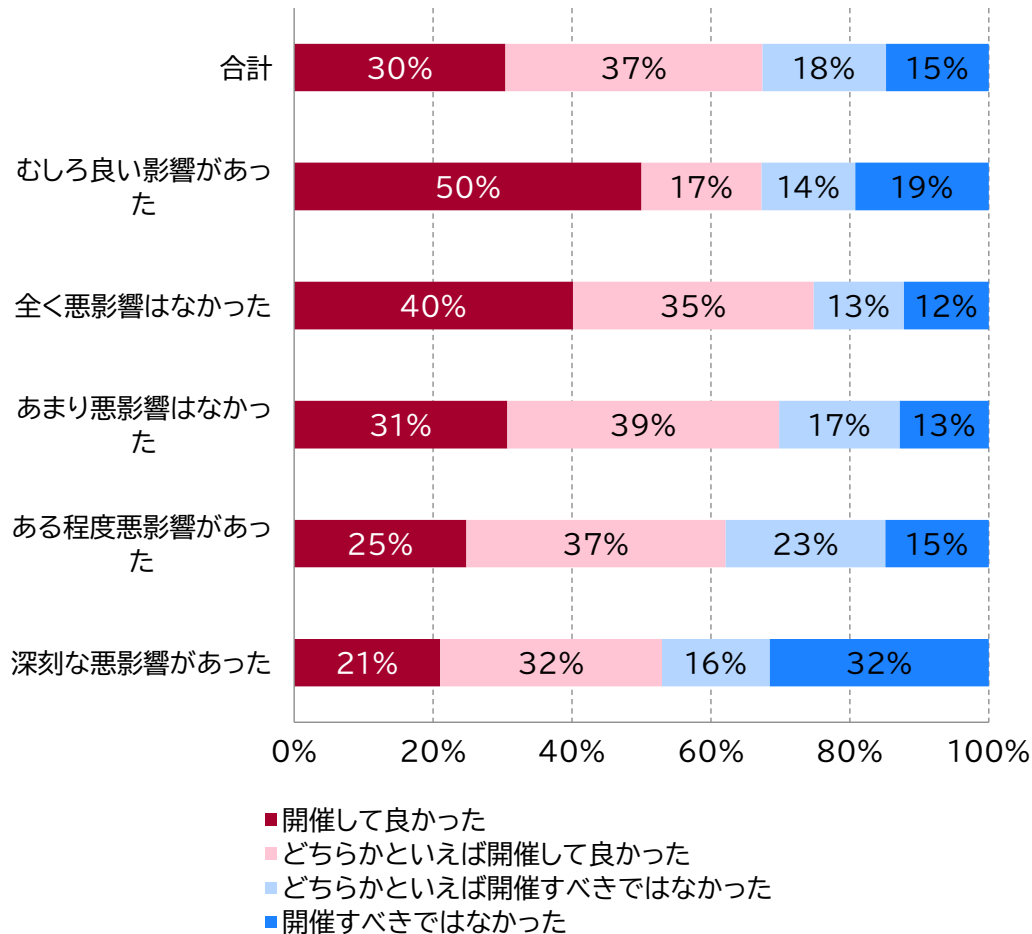


I. 大会等全般について

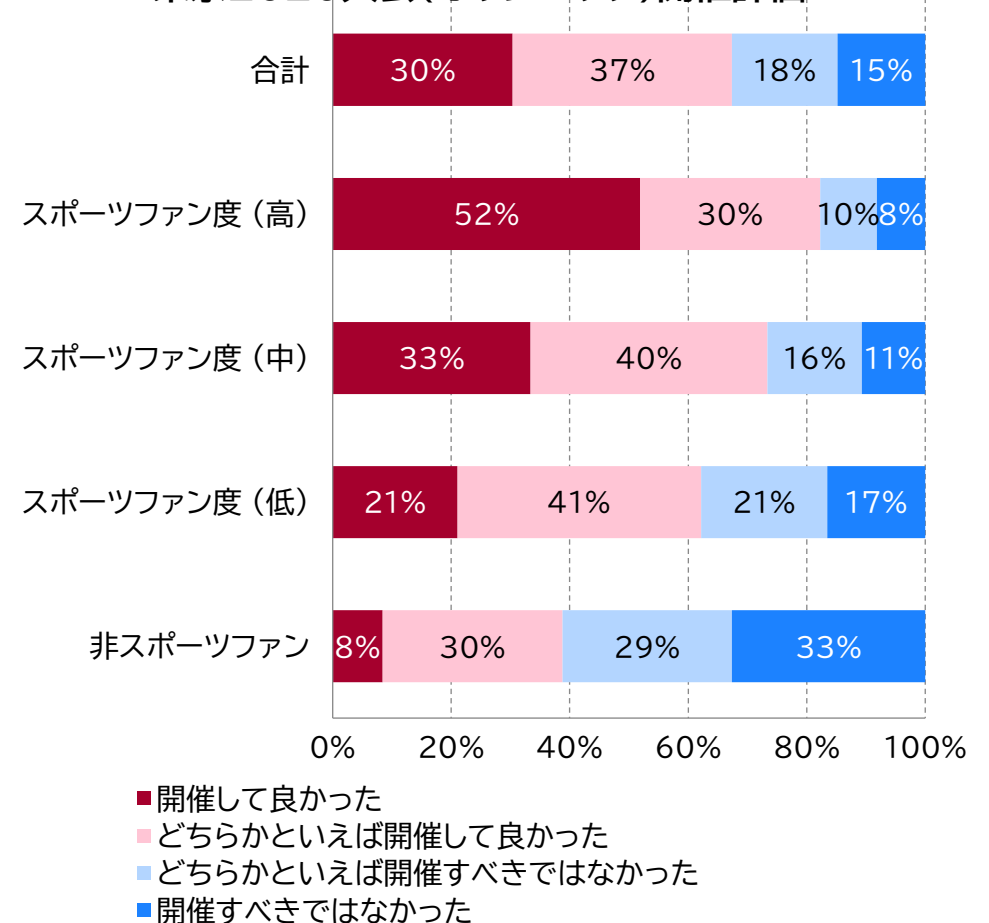
1. 東京2020大会開催への賛否③

- 新型コロナウイルス感染症拡大でむしろ良い影響があった人、スポーツファンにおいて、大会を開催して良かったという評価が多い

図表10_新型コロナウイルスの影響(収入面)
×東京2020大会(オリンピック)開催評価



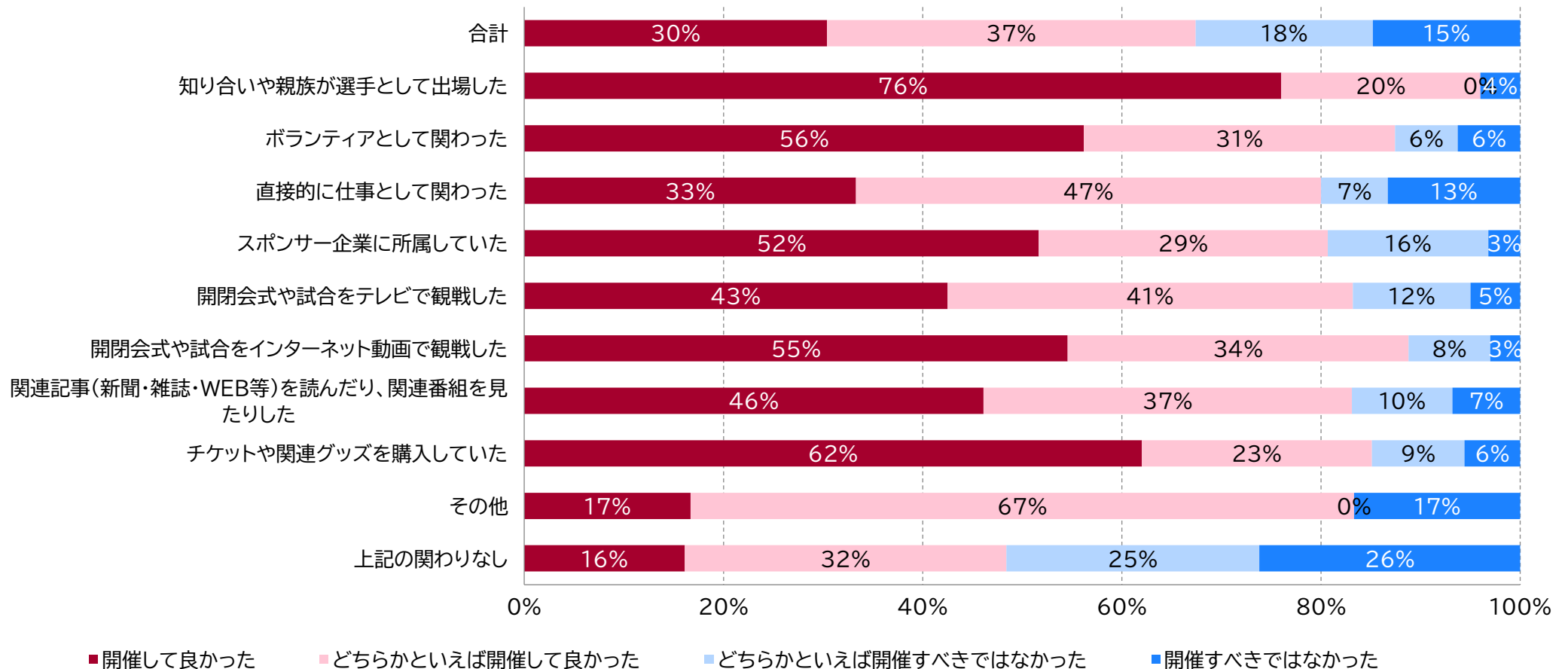
図表11_スポーツファン度
×東京2020大会(オリンピック)開催評価



1. 東京2020大会開催への賛否④

- 東京2020大会に関わっていた、観戦していた人は大会開催を肯定的にとらえている

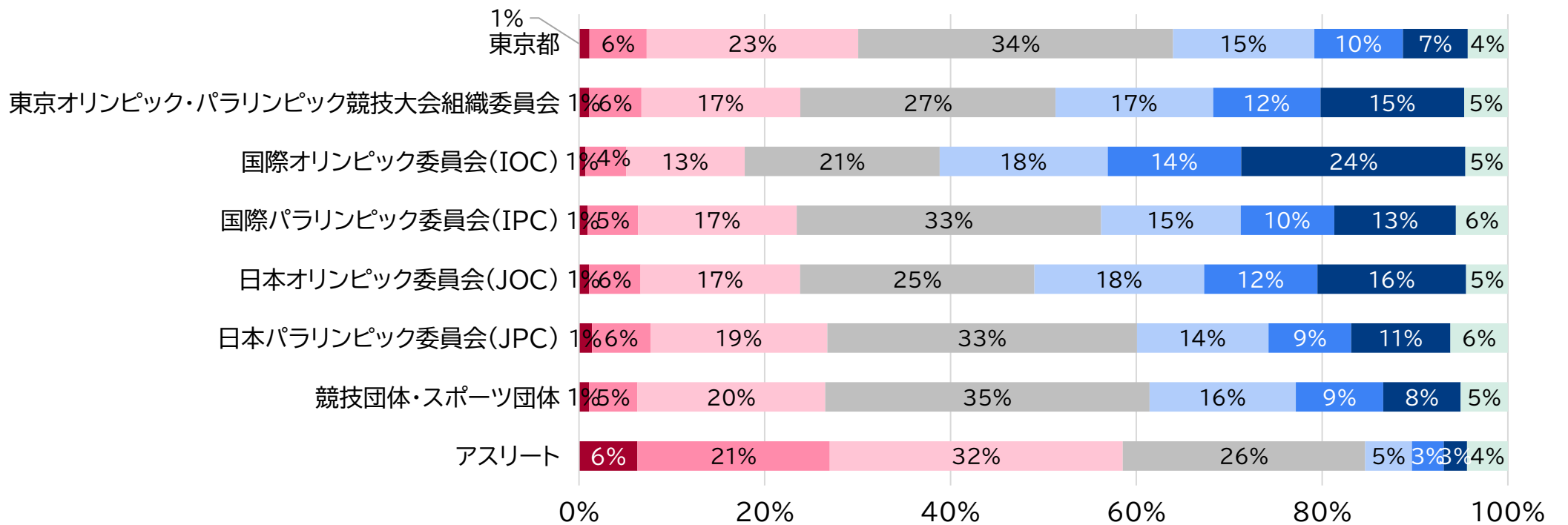
図表12__東京2020大会への関わり×東京2020大会(オリンピック)開催評価



2. 東京2020大会関連組織・人物への信頼度①

- 東京2020大会関連組織・人物への信頼度を見ると、アスリートは6割と高いが、関連組織は2割～3割程度にとどまる

図表13_オリパラ組織信頼度



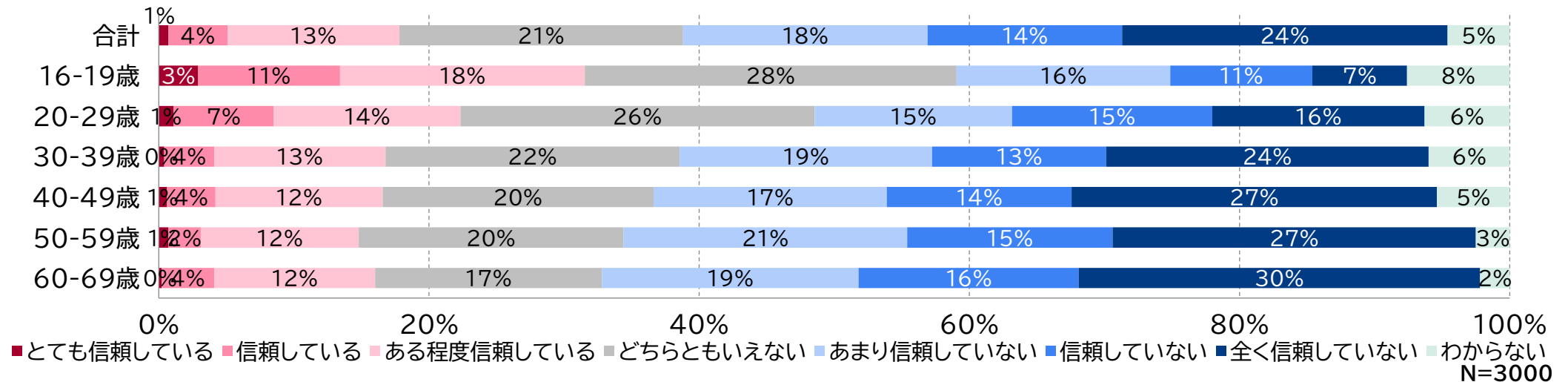
■とても信頼している ■信頼している ■ある程度信頼している ■どちらともいえない ■あまり信頼していない ■信頼していない ■全く信頼していない ■わからない

I. 大会等全般について

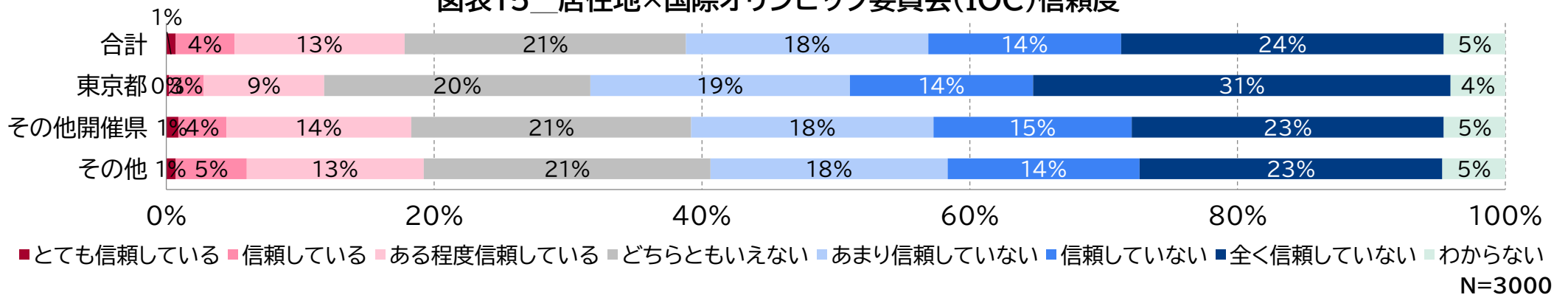
2. 東京2020大会関連組織・人物への信頼度②

- IOCへの信頼度は全般に低いが、特に、30代以上、東京都居住者、東京2020大会開催否定派、新型コロナによる悪影響があった人で信頼度が低い

図表14_年代×国際オリンピック委員会(IOC)信頼度



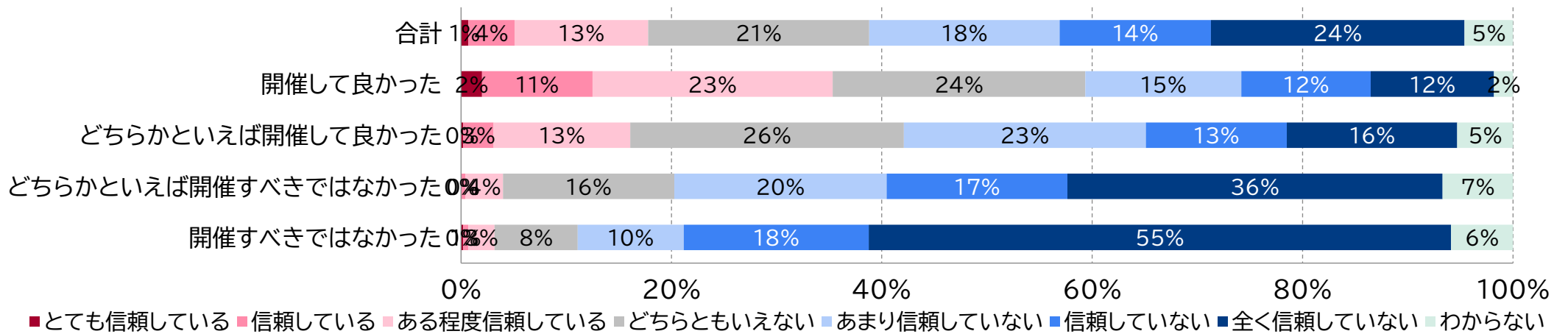
図表15_居住地×国際オリンピック委員会(IOC)信頼度



I. 大会等全般について

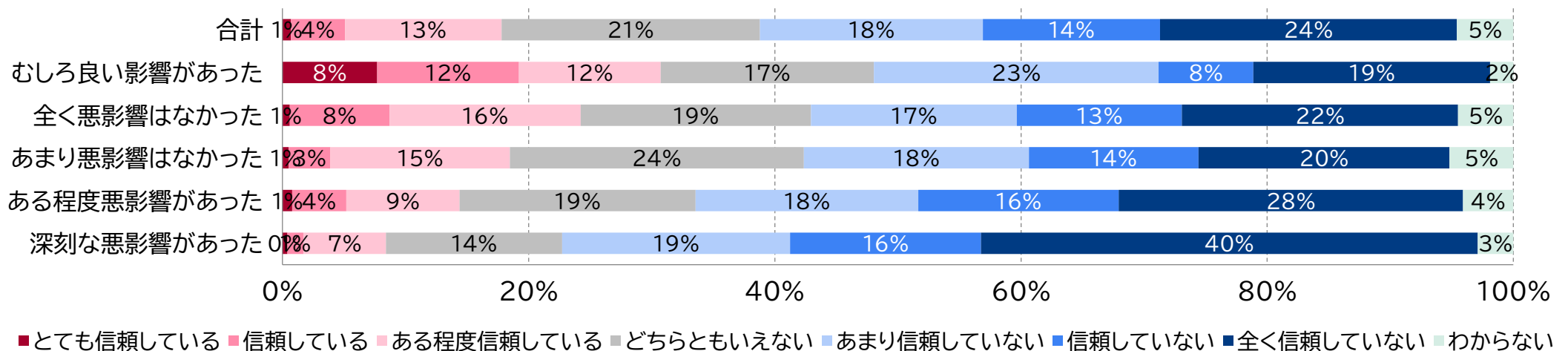
2. 東京2020大会関連組織・人物への信頼度③

図表16__東京2020大会(オリンピック)賛否×国際オリンピック委員会(IOC)信頼度



N=3000

図表17__新型コロナの影響(収入面)×国際オリンピック委員会(IOC)信頼度



N=3000

Ⅱ. 大会の影響(インパクト)と 未来社会への貢献(レガシー)

Ⅱ. 大会の影響(インパクト)と未来社会への貢献(レガシー)

1. 東京2020大会による自身や社会への影響①

- 東京2020大会が自身や社会にどのような影響を与えたか(インパクト認識)を見ると、「新型コロナウイルス感染症拡大リスクの増加」「開催経費の過負担」といったネガティブな評価が多い
- 「経済活動の促進」「周囲との一体感向上」といったポジティブな項目の評価は低い

図表18__東京2020大会による自身や社会への影響
(インパクト認識のスコア)

新型コロナウイルス感染症の拡大	4.92
開催経費の過負担	4.70
日本のイメージ・認知度の向上	3.92
不安感の増幅	3.74
快感情の獲得	3.69
ナショナル・アイデンティティの向上	3.67
多様性への理解・新たな機会の獲得	3.60
スポーツ・健康への興味促進	3.41
周囲との一体感向上	3.16
経済活動の促進	3.06

注:スコアの説明は以下のとおりである。まず、押見大地(2020)「メガスポーツイベントによる社会効果:東京2020オリンピック・パラリンピックにおける検証」を参考に、東京2020大会のインパクト認識を問う10因子31項目を作成した。次に、各項目について「全くそう思わない」(1点)から「とてもそう思う」(7点)の7件法で測定し、当該因子を構成する項目全体のスコアの平均値を求めた。

【参考】東京2020大会の影響(インパクト)詳細①

	平均値	標準偏差
新型コロナウイルス感染症の拡大	4.92	
東京2020大会開催に伴う新型コロナウイルス感染拡大の可能性は、私を不安にさせた	4.82	1.62
東京2020大会開催によって、私は新型コロナウイルスが持ち込まれるのではないかと心配になった	5.09	1.59
東京2020大会開催によって、私は医療現場への悪影響が心配になった	4.86	1.57
開催経費の過負担	4.70	
東京2020大会の開催は過剰投資であった	4.80	1.60
東京2020大会を開催するための施設建設に税金を無駄遣いしていた	4.73	1.62
東京2020大会を開催するため以外に税金を使うべきだと思った	4.57	1.64
日本のイメージ・認知度の向上	3.92	
東京2020大会によって、国際的に日本のイメージが向上した	3.81	1.48
東京2020大会によって、国際的に日本の認知度が向上した	3.97	1.48
東京2020大会によって、日本を世界に知らせる機会が増加した	3.99	1.51
不安感の増幅	3.74	
東京2020大会開催に伴うテロ攻撃の可能性は、私を不安にさせた	3.64	1.49
東京2020大会開催によって、私はテロリストが来るのではないかと心配になった	3.60	1.50
東京2020大会開催によって、私は安全性／治安の悪化が心配になった	3.99	1.52
快感情の獲得	3.69	
私は、東京2020大会のような大会が開催されることを誇りに思った	3.76	1.62
私は、東京2020大会が開催されることに幸せを感じた	3.60	1.63
東京2020大会によって、私の気分が高揚した	3.72	1.74

「1. 全くそう思わない」～「7. とてもそう思う」

太字は当該因子を構成する項目全体の平均値を意味する

【参考】東京2020大会の影響(インパクト)詳細②

	平均値	標準偏差
ナショナル・アイデンティティの向上	3.67	
東京2020大会によって、日本に対する私の帰属意識が強まった	3.51	1.51
東京2020大会によって、私は日本の結束力を感じた	3.71	1.57
東京2020大会によって、私は日本人であることを強く意識した	3.78	1.59
多様性への理解・新たな機会の獲得	3.60	
東京2020大会によって、私の異文化への興味が増した	3.42	1.48
東京2020大会によって、私はいつもと違う経験ができた	3.61	1.66
東京2020大会によって、私は多種多様な人々に対する理解を深められた	3.76	1.46
東京2020大会によって、私は新たなことを学ぶ機会が増えた	3.59	1.52
スポーツ・健康への興味促進	3.41	
東京2020大会によって、私はスポーツや運動をもっと行おうという気になった	3.22	1.57
東京2020大会によって、私の健康意識が高まった	3.45	1.50
東京2020大会によって、私のスポーツや運動への興味が促進された	3.57	1.61
周囲との一体感向上	3.16	
東京2020大会によって、私は家族・友人・同僚などとの人間関係が強まった	3.09	1.47
東京2020大会によって、私は周囲との一体感を実感した	3.29	1.55
東京2020大会によって、私は他者と強いつながりを感じた	3.11	1.47
経済活動の促進	3.06	
東京2020大会によって、日本の経済状況が改善された	2.99	1.43
東京2020大会によって、日本の観光産業振興が促進された	3.14	1.46
東京2020大会によって、個人消費が拡大した	3.05	1.40

「1. 全くそう思わない」～「7. とてもそう思う」

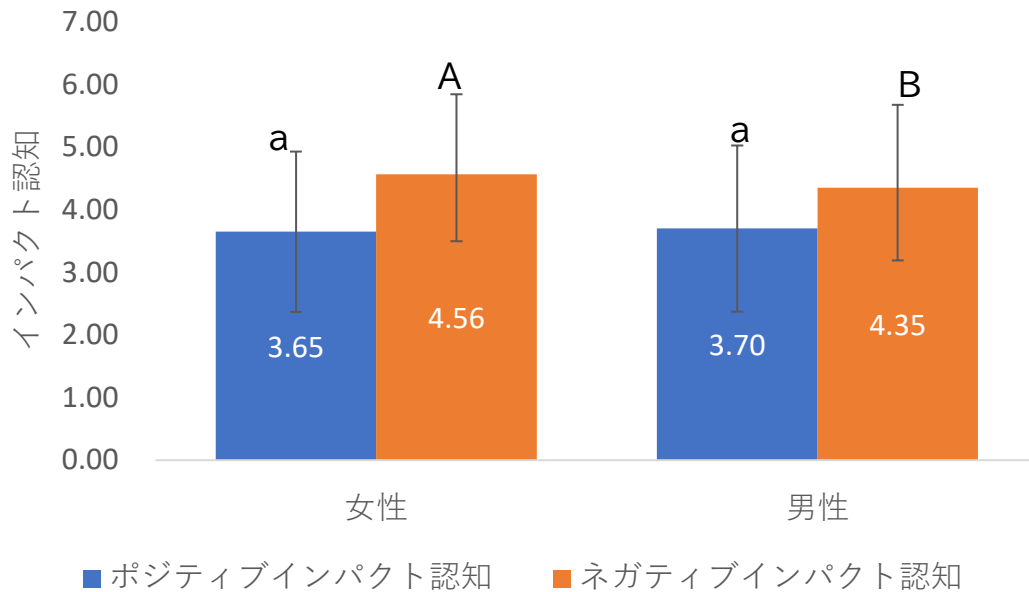
太字は当該因子を構成する項目全体の平均値を意味する

Ⅱ. 大会の影響(インパクト)と未来社会への貢献(レガシー)

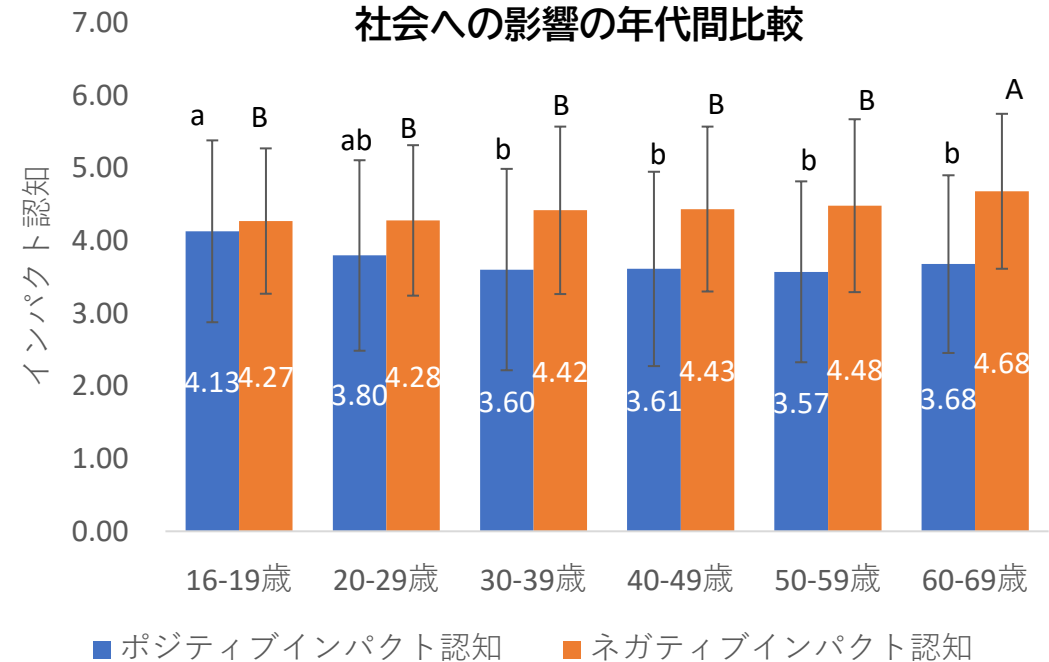
1. 東京2020大会による自身や社会への影響②

- 東京2020大会開催によるポジティブなインパクト認識に男女差は見られないが、ネガティブなインパクト認識は、男性よりも女性の方が高い
- ポジティブなインパクト認識とネガティブなインパクト認識に年代差が見られ、10代でポジティブなインパクト認識、60代でネガティブなインパクト認識が高い

図表19_東京2020大会による自身や社会への影響の性別間比較



図表20_東京2020大会による自身や社会への影響の年代間比較



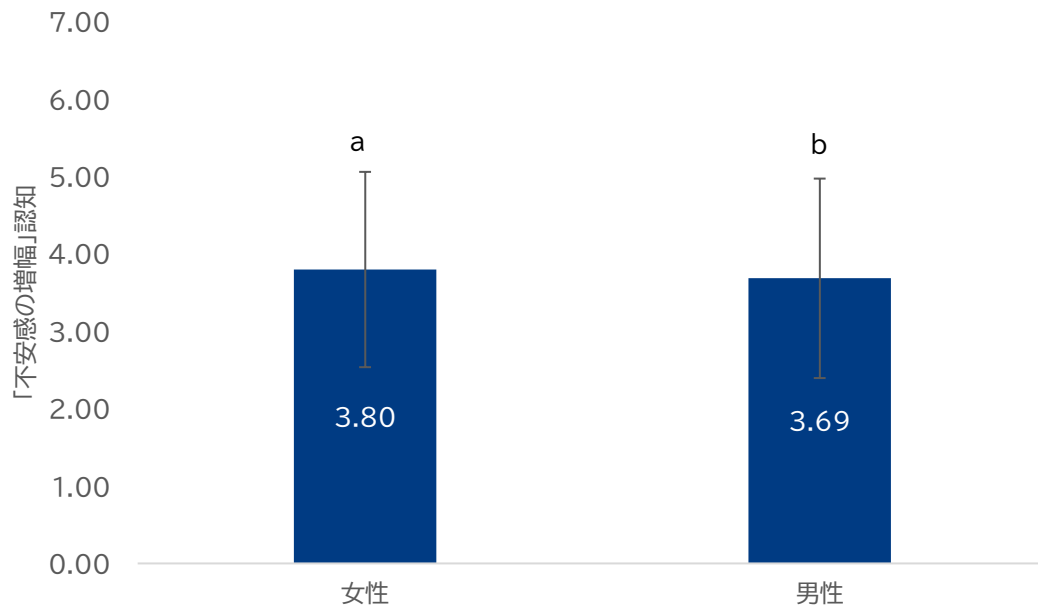
注:ネガティブインパクトは前項の「新型コロナウイルス感染症の拡大」「開催経費の過負担」「不安感の増幅」因子の項目平均値。ポジティブインパクトはその他7因子を構成する項目の平均値である。比較検定は、2群の場合はt検定、3群以上の場合は一元配置分散分析(Bonferroni多重比較)を用いている。アルファベットは異なる文字間で有意差ありを意味し、a>b、A>Bである。

Ⅱ. 大会の影響(インパクト)と未来社会への貢献(レガシー)

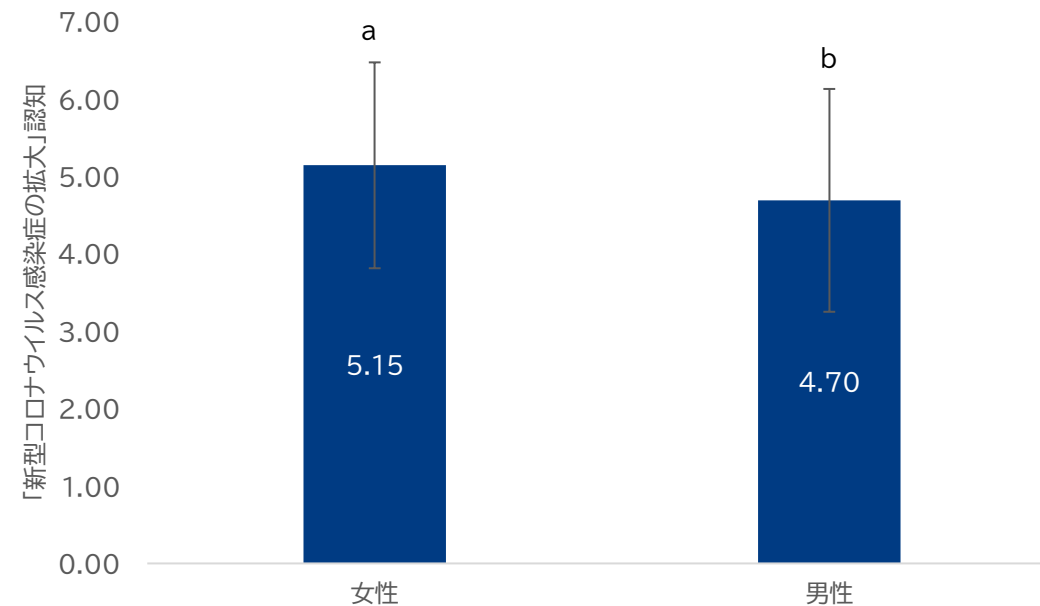
1. 東京2020大会による自身や社会への影響③

- 東京2020大会開催による「不安感の増幅」認識は、男性よりも女性の方が高い
- 東京2020大会開催による「新型コロナウイルスの拡大」認識は、男性よりも女性の方が高い

図表21__東京2020大会による「不安感の増幅」の性別間比較



図表22__東京2020大会による「新型コロナウイルス感染症の拡大」の性別間比較



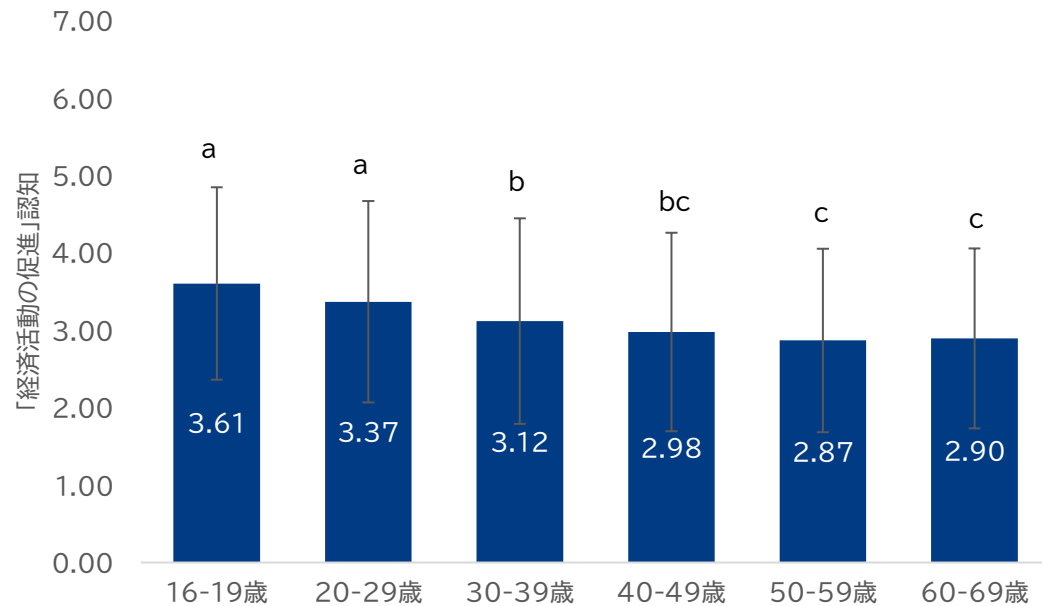
注:比較検定は、t検定を用いている。アルファベットは異なる文字間で有意差ありを意味し、a>bである。

Ⅱ. 大会の影響(インパクト)と未来社会への貢献(レガシー)

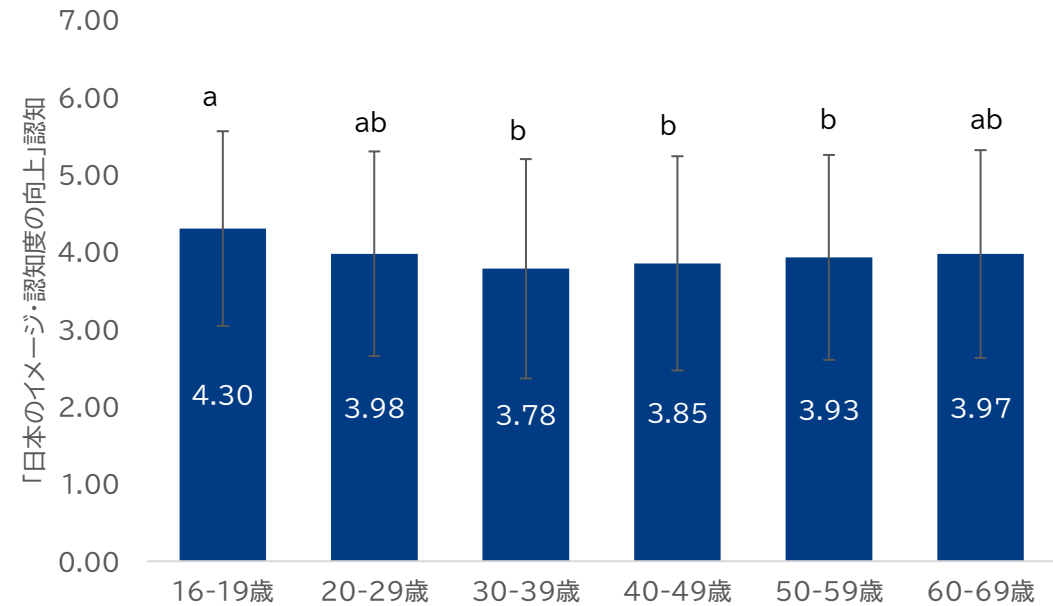
1. 東京2020大会による自身や社会への影響④

- 東京2020大会開催による「経済活動の促進」認識には年代差が見られ、年代が低いほど認識が高い傾向がある
- 東京2020大会開催による「日本のイメージ・認知度の向上」認識には年代差が見られ、10代と比較して30～50代で認識が低い

図表23__東京2020大会による「経済活動の促進」の年代間比較



図表24__東京2020大会による「日本のイメージ・認知度の向上」の年代間比較



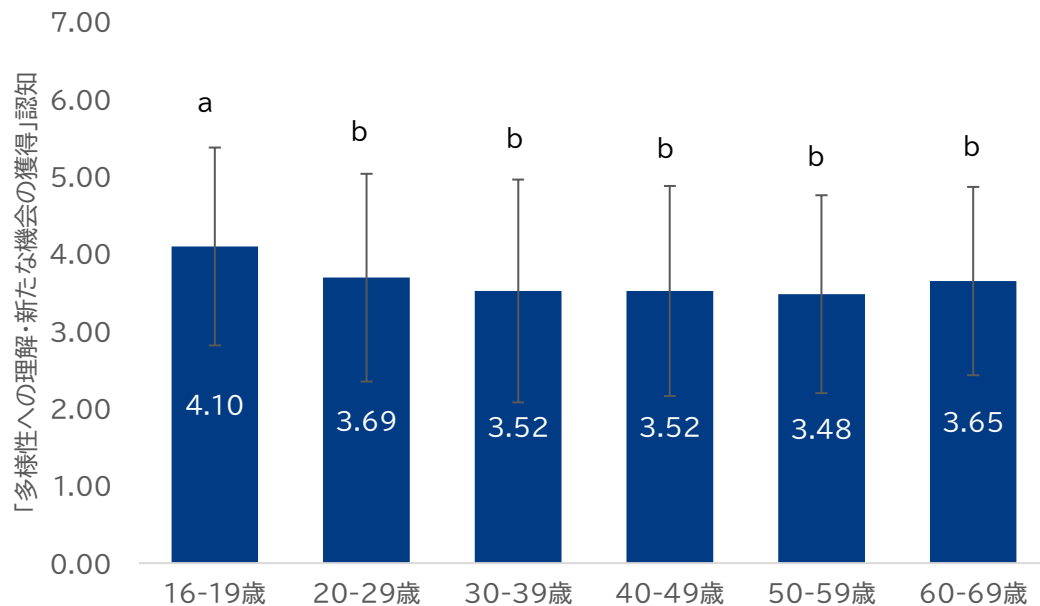
注:比較検定は、一元配置分散分析(Bonferroni多重比較)を用いている。アルファベットは異なる文字間で有意差ありを意味し、 $a > b > c$ である

Ⅱ. 大会の影響(インパクト)と未来社会への貢献(レガシー)

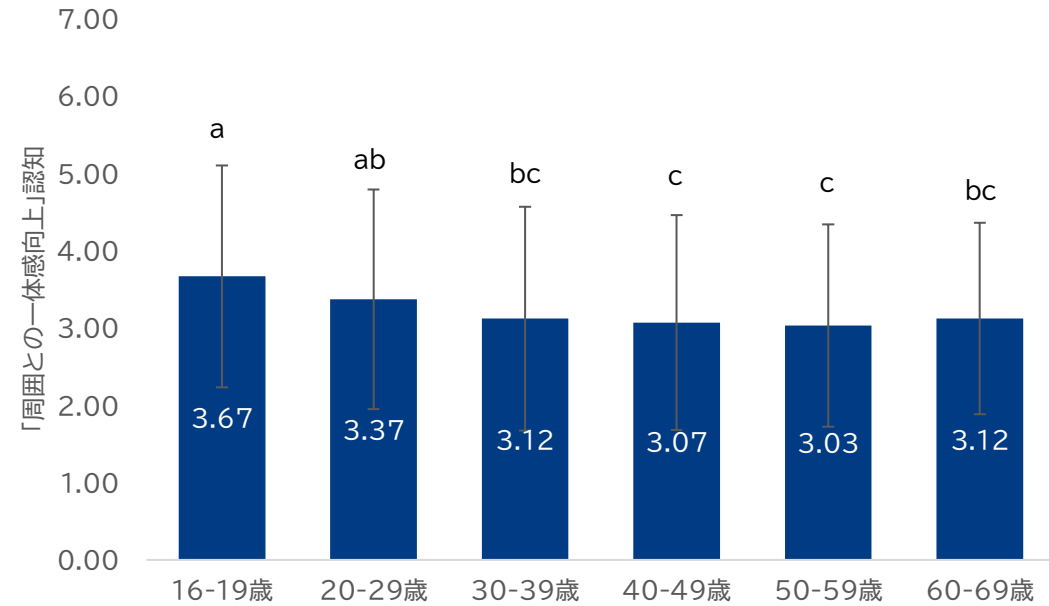
1. 東京2020大会による自身や社会への影響⑤

- 東京2020大会開催による「多様性への理解・新たな機会の獲得」認識には年代差が見られ、相対的に10代の認識が高い
- 東京2020大会開催による「周囲との一体感向上」認識には年代差が見られ、年代が低いほど認識が高い傾向がある

図表25 東京2020大会による「多様性への理解・新たな機会の獲得」の年代間比較



図表26 東京2020大会による「周囲との一体感の向上」の年代間比較



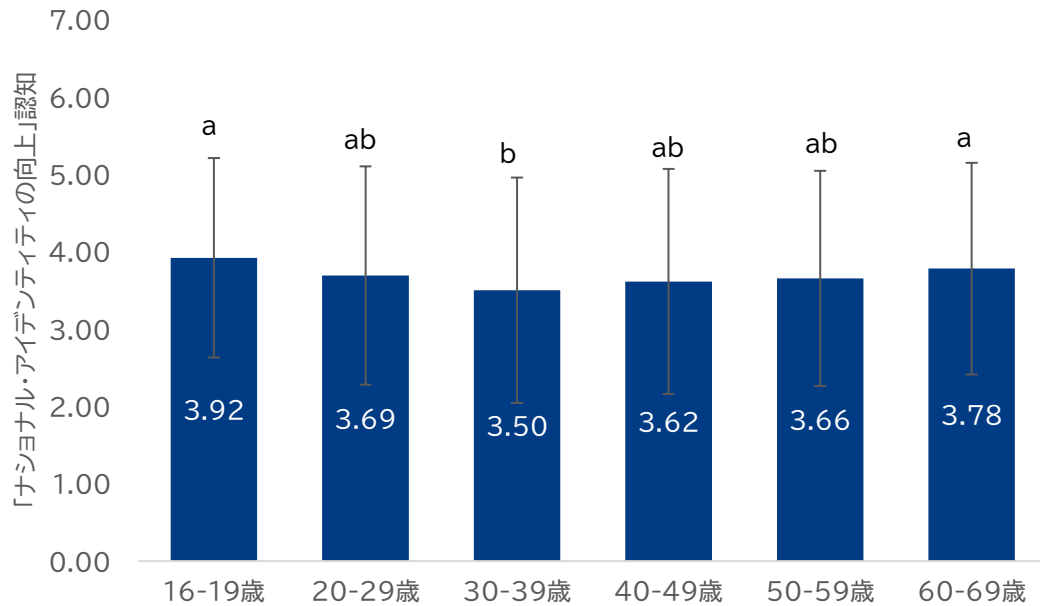
注:比較検定は、一元配置分散分析(Bonferroni多重比較)を用いている。アルファベットは異なる文字間で有意差ありを意味し、 $a > b > c$ である

Ⅱ. 大会の影響(インパクト)と未来社会への貢献(レガシー)

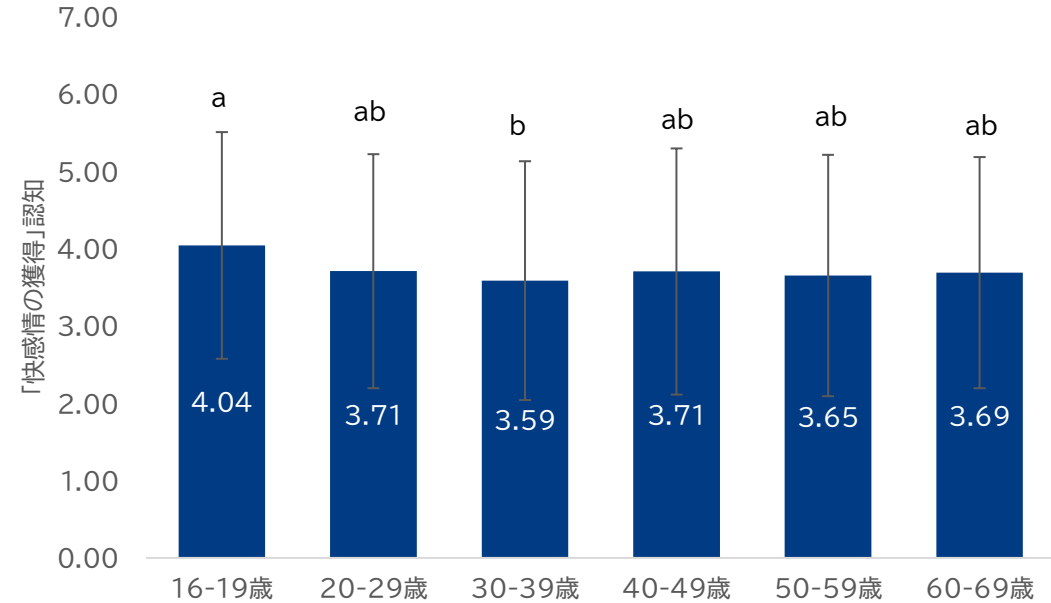
1. 東京2020大会による自身や社会への影響⑥

- 東京2020大会開催による「ナショナル・アイデンティティの向上」認識には年代差が見られ、30代と比較して10代・60代の認識が高い
- 東京2020大会開催による「快感情の獲得」認識には年代差が見られ、10代と比較して30代の認識が低い

図表27 東京2020大会による「ナショナル・アイデンティティの向上」の年代間比較



図表28 東京2020大会による「快感情の獲得」の年代間比較



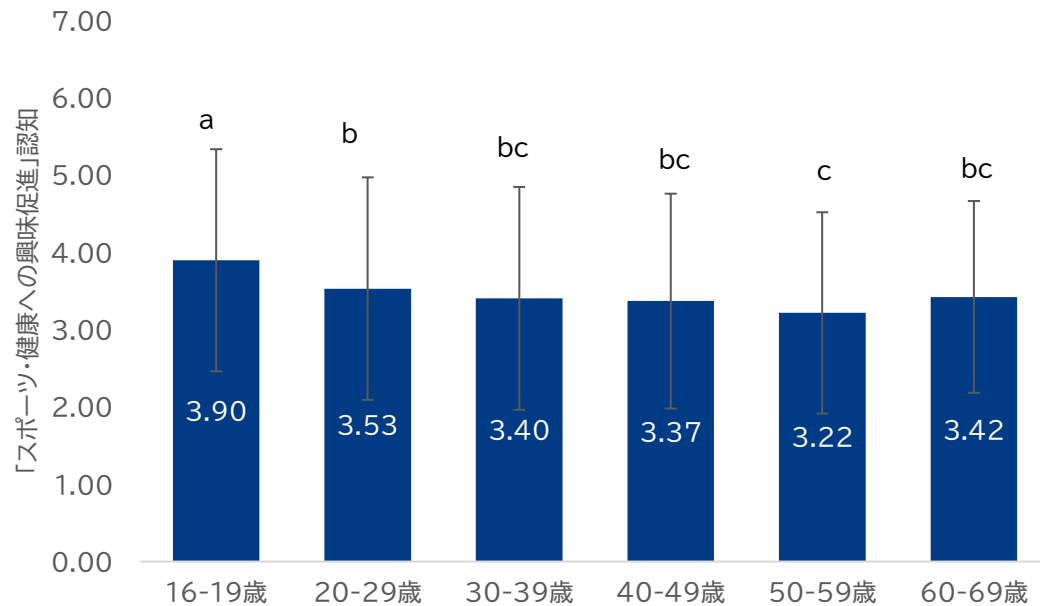
注:比較検定は、一元配置分散分析(Bonferroni多重比較)を用いている。アルファベットは異なる文字間で有意差ありを意味し、a>bである

Ⅱ. 大会の影響(インパクト)と未来社会への貢献(レガシー)

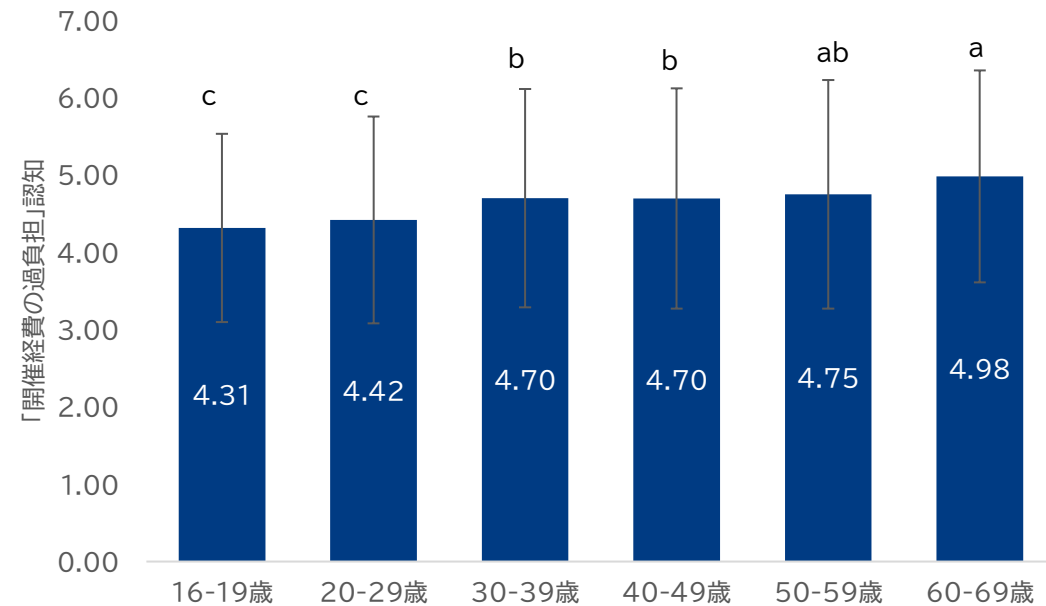
1. 東京2020大会による自身や社会への影響⑦

- 東京2020大会開催による「スポーツ・健康への興味促進」認識には年代差が見られ、年代が低いほど認識が高い傾向がある
- 東京2020大会開催による「開催経費の過負担」認識には年代差が見られ、年代が高いほど認識が高い傾向がある

図表29__東京2020大会による「スポーツ・健康への興味促進」の年代間比較



図表30__東京2020大会による「開催経費の過負担」の年代間比較



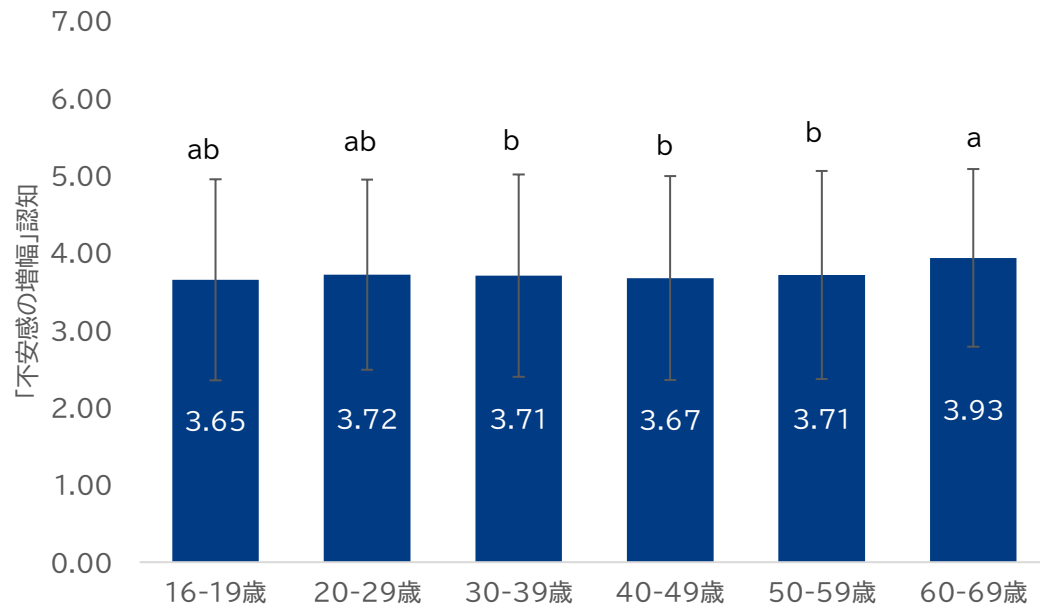
注:比較検定は、一元配置分散分析(Bonferroni多重比較)を用いている。アルファベットは異なる文字間で有意差ありを意味し、a>b>cである

Ⅱ. 大会の影響(インパクト)と未来社会への貢献(レガシー)

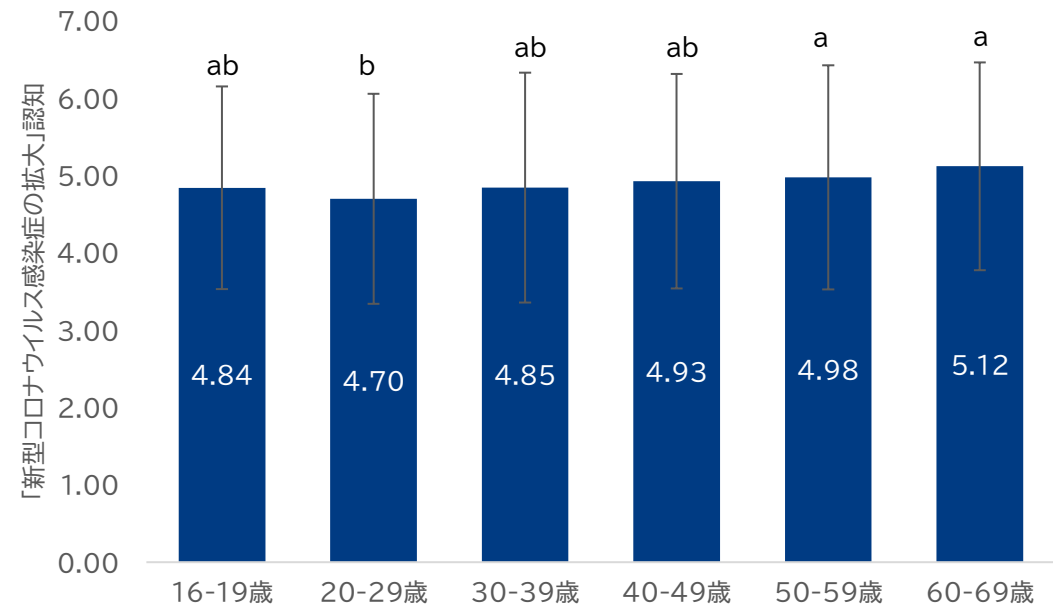
1. 東京2020大会による自身や社会への影響⑧

- 東京2020大会開催による「不安感の増幅」認識には年代差が見られ、30～50代と比較して60代の認識が高い
- 東京2020大会開催による「新型コロナウイルスの拡大」認識には年代差が見られ、20代と比較して50代・60代の認識が高い

図表31_東京2020大会による「不安感の増幅」の年代間比較



図表32_東京2020大会による「新型コロナウイルス感染症の拡大」の年代間比較



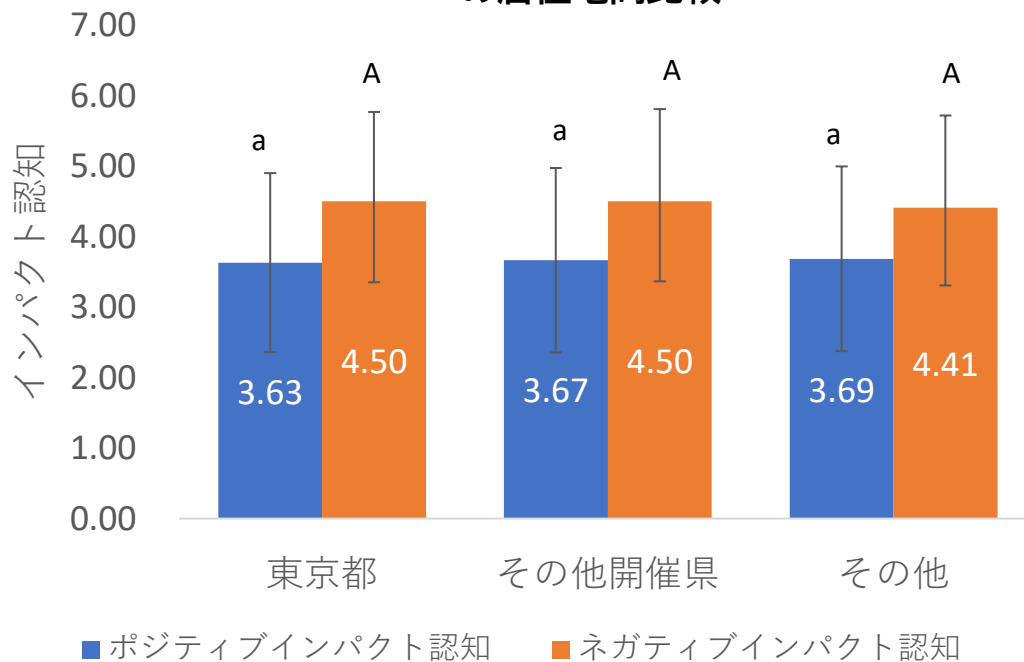
注:比較検定は、一元配置分散分析(Bonferroni多重比較)を用いている。アルファベットは異なる文字間で有意差ありを意味し、a>bである

Ⅱ. 大会の影響(インパクト)と未来社会への貢献(レガシー)

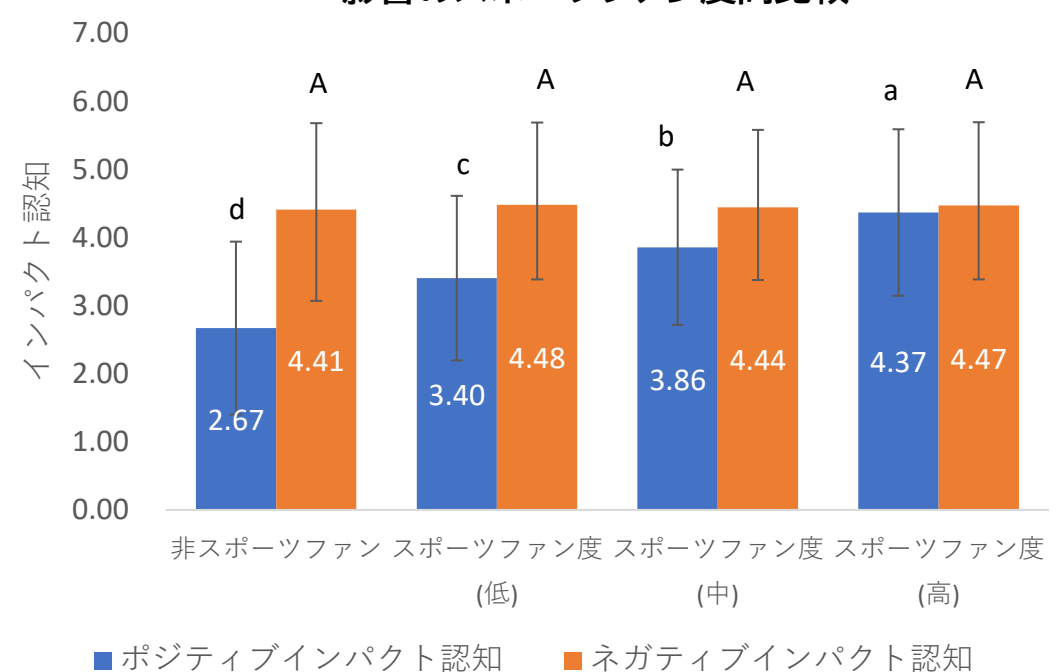
1. 東京2020大会による自身や社会への影響⑨

- 東京2020大会開催によるポジティブなインパクトとネガティブなインパクト認識には居住地差が見られない
- ポジティブなインパクト認知にはスポーツファン度の差が見られ、スポーツファン度の高いほど認識が高い傾向にある

図表33 東京2020大会による自身や社会への影響の居住地間比較



図表34 東京2020大会による自身や社会への影響のスポーツファン度間比較



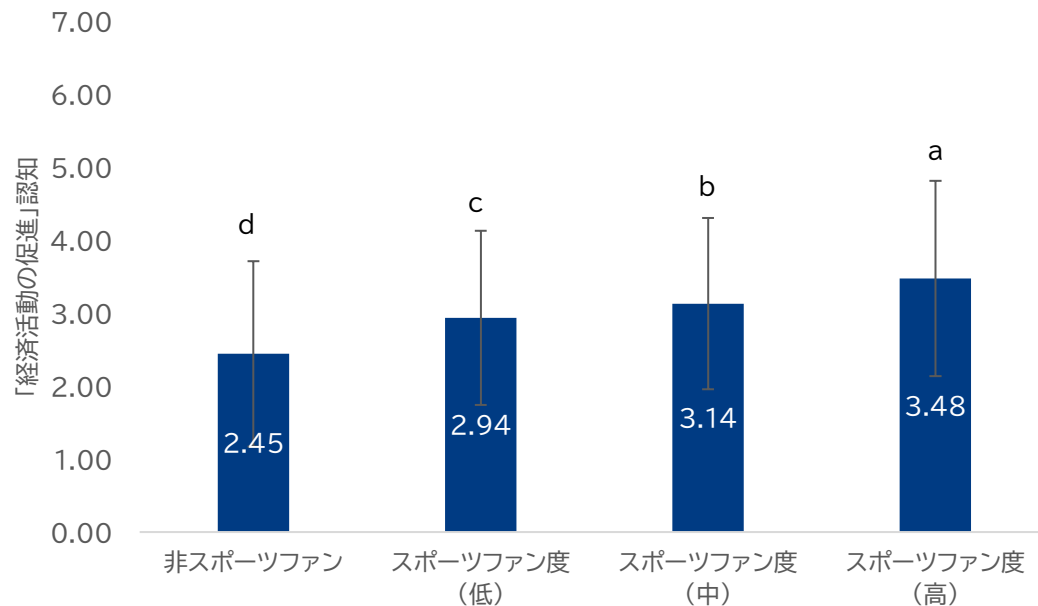
注:Funahashi et al. (2020) 「Valuing elite sport success using the contingent valuation method: A transnational study」を参考に、8つのスポーツ関連消費活動の頻度についての回答データから、回答者のスポーツファン度を4カテゴリー(非スポーツファン～スポーツファン度(高))に分類。ポジティブインパクト、ネガティブインパクトの説明についてはp.20を参照。比較検定は、一元配置分散分析(Bonferroni多重比較)を用いている。アルファベットは異なる文字間で有意差ありを意味し、 $a > b > c > d$ である。

Ⅱ. 大会の影響(インパクト)と未来社会への貢献(レガシー)

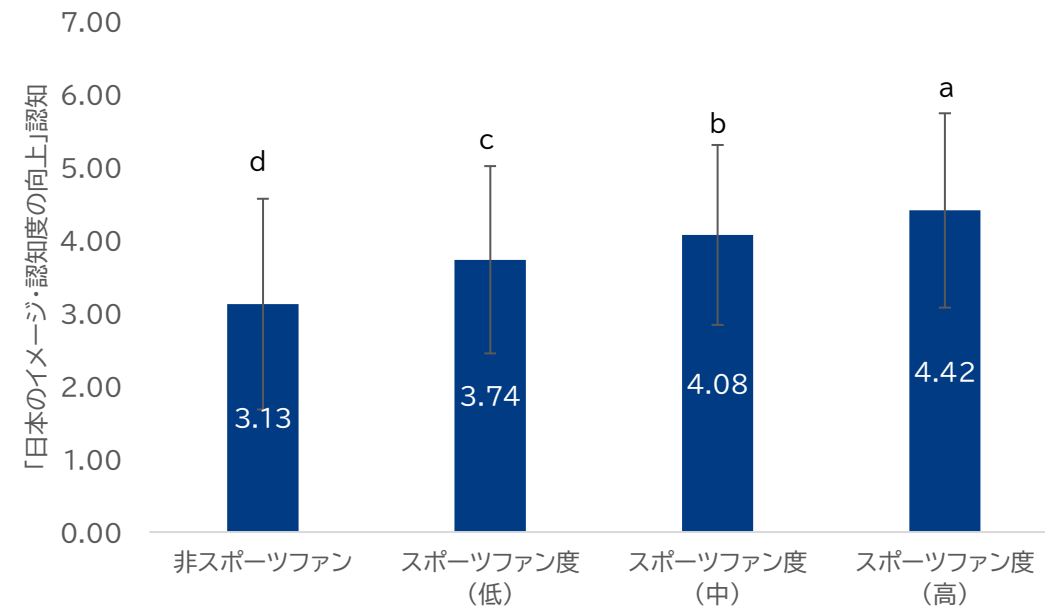
1. 東京2020大会による自身や社会への影響⑩

- 東京2020大会開催による「経済活動の促進」認識にはスポーツファン度で差が見られ、スポーツファン度の高いほど認識が高い傾向にある
- 東京2020大会開催による「日本のイメージ・認知度の向上」認識にはスポーツファン度で差が見られ、スポーツファン度の高いほど認識が高い傾向にある

図表35_ スポーツファン度
×東京2020大会による経済活動の促進



図表36_ スポーツファン度
×東京2020大会による日本のイメージ・認知度の向上



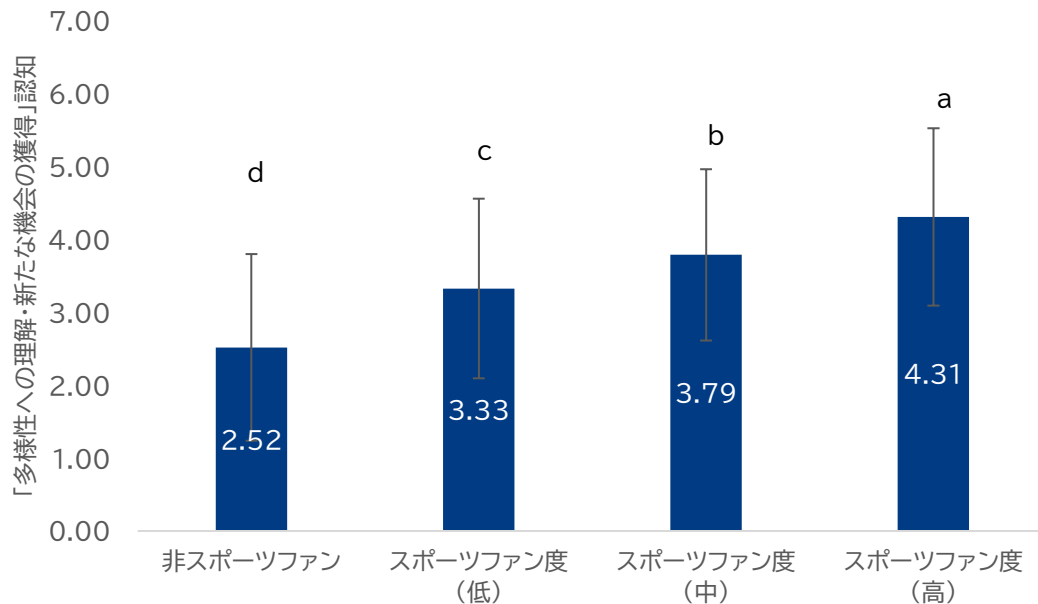
注:比較検定は、一元配置分散分析(Bonferroni多重比較)を用いている。アルファベットは異なる文字間で有意差ありを意味し、 $a > b > c > d$ である。

Ⅱ. 大会の影響(インパクト)と未来社会への貢献(レガシー)

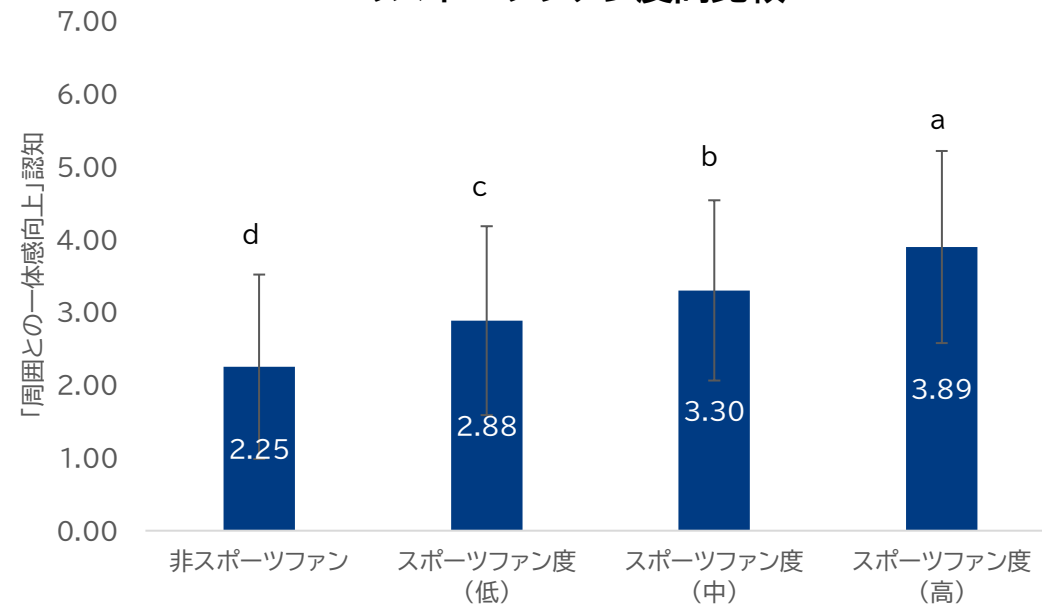
1. 東京2020大会による自身や社会への影響①

- 東京2020大会開催による「多様性への理解・新たな機会の獲得」認識にはスポーツファン度で差が見られ、スポーツファン度の高いほど認識が高い傾向にある
- 東京2020大会開催による「周囲との一体感向上」認識にはスポーツファン度で差が見られ、スポーツファン度の高いほど認識が高い傾向にある

図表37__東京2020大会による「多様性への理解・新たな機会の獲得」のスポーツファン度間比較



図表38__東京2020大会による「周囲との一体感向上」のスポーツファン度間比較



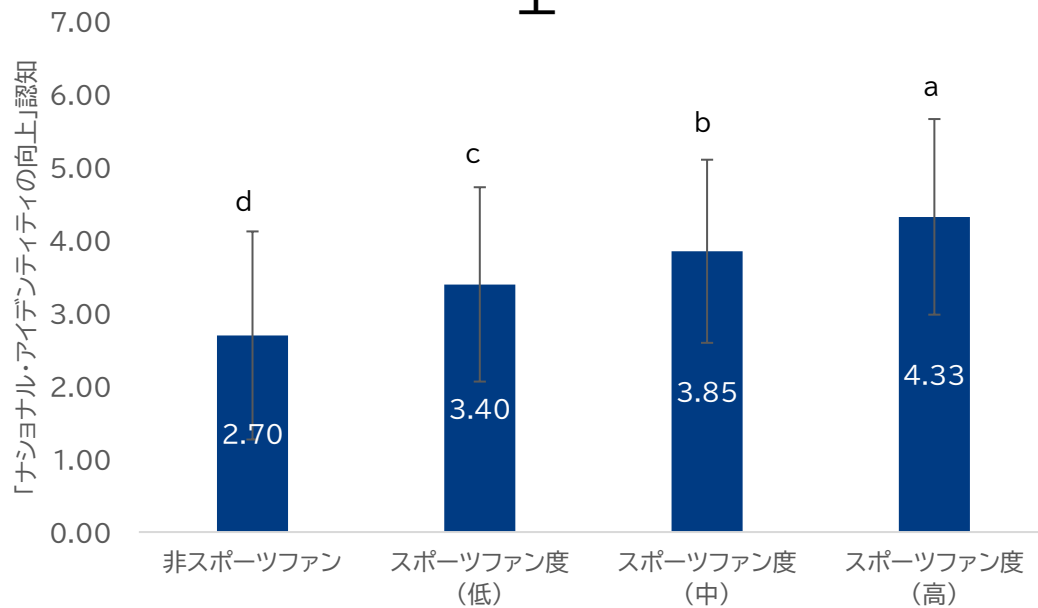
注:比較検定は、一元配置分散分析(Bonferroni多重比較)を用いている。アルファベットは異なる文字間で有意差ありを意味し、a>b>c>dである。

Ⅱ. 大会の影響(インパクト)と未来社会への貢献(レガシー)

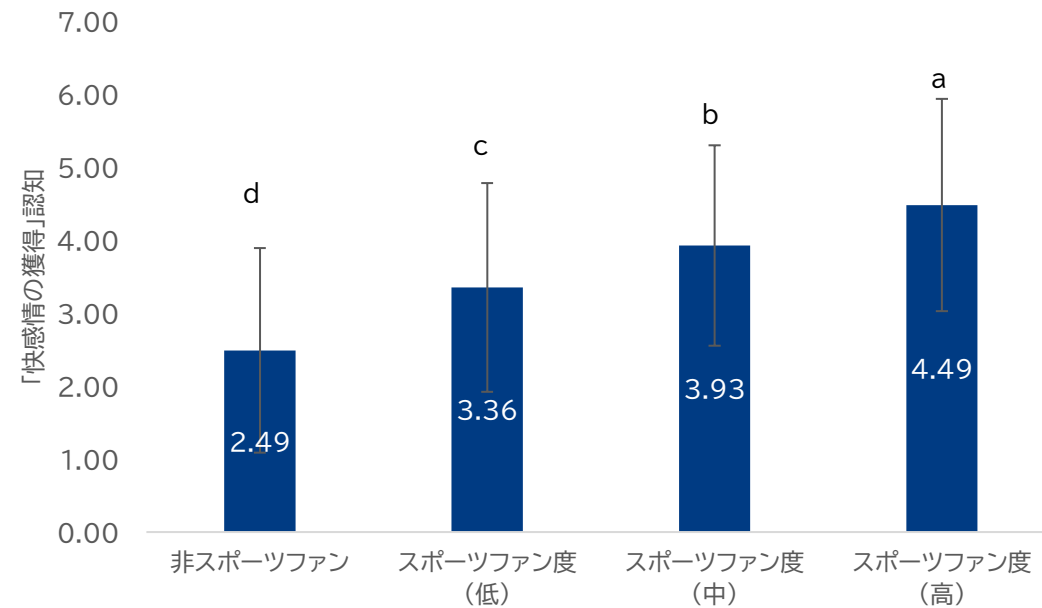
1. 東京2020大会による自身や社会への影響⑫

- 東京2020大会開催による「ナショナル・アイデンティティの向上」認識にはスポーツファン度で差が見られ、スポーツファン度の高いほど認識が高い傾向にある
- 東京2020大会開催による「快感情の獲得」認識にはスポーツファン度で差が見られ、スポーツファン度の高いほど認識が高い傾向にある

図表39_ スポーツファン度
×東京2020大会によるナショナル・アイデンティティの向上



図表40_ スポーツファン度×
東京2020大会による快感情の獲得



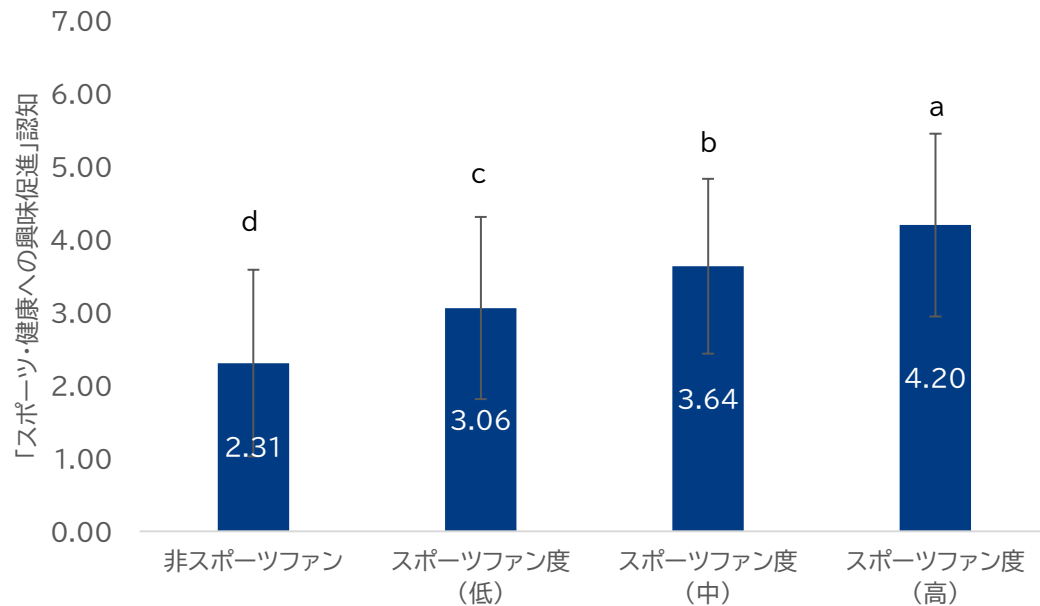
注:比較検定は、一元配置分散分析(Bonferroni多重比較)を用いている。アルファベットは異なる文字間で有意差ありを意味し、a>b>c>dである。

Ⅱ. 大会の影響(インパクト)と未来社会への貢献(レガシー)

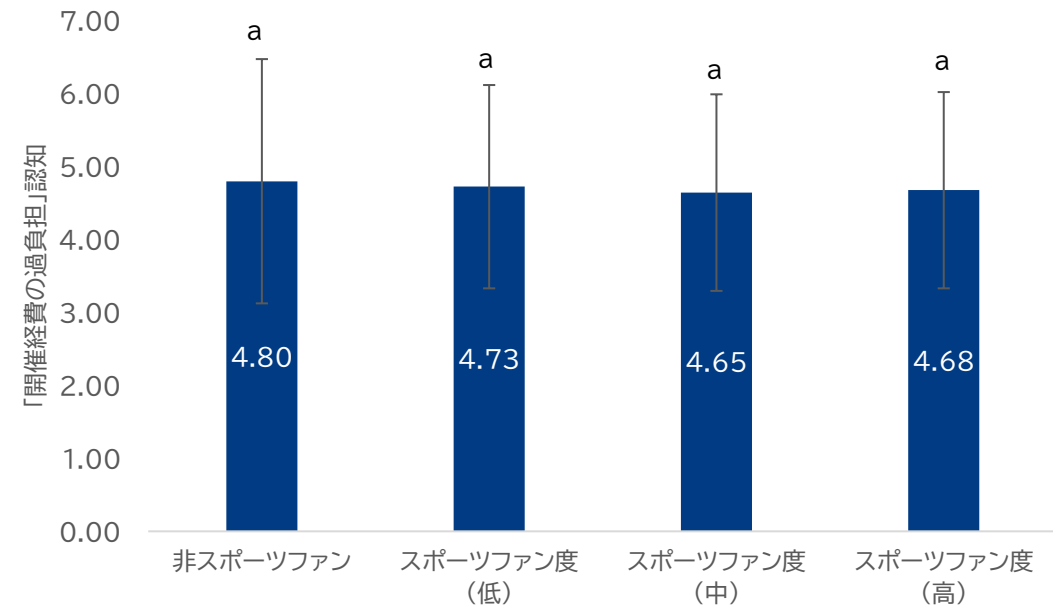
1. 東京2020大会による自身や社会への影響⑬

- 東京2020大会開催による「スポーツ・健康への興味促進」認識にはスポーツファン度で差が見られ、スポーツファン度の高いほど認識が高い傾向にある
- 東京2020大会開催による「開催経費の過負担」認識にはスポーツファン度で差が見られなかった

図表41 東京2020大会による「スポーツ・健康への興味促進」のスポーツファン度間比較



図表42 東京2020大会による「開催経費の過負担」のスポーツファン度間比較



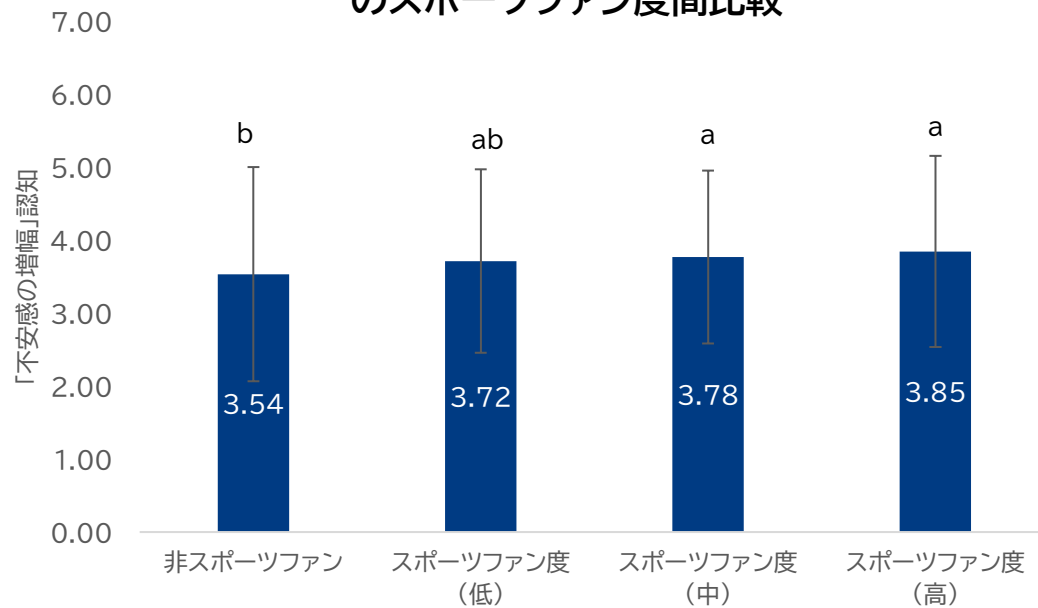
注:比較検定は、一元配置分散分析(Bonferroni多重比較)を用いている。アルファベットは異なる文字間で有意差ありを意味し、 $a > b > c > d$ である。

Ⅱ. 大会の影響(インパクト)と未来社会への貢献(レガシー)

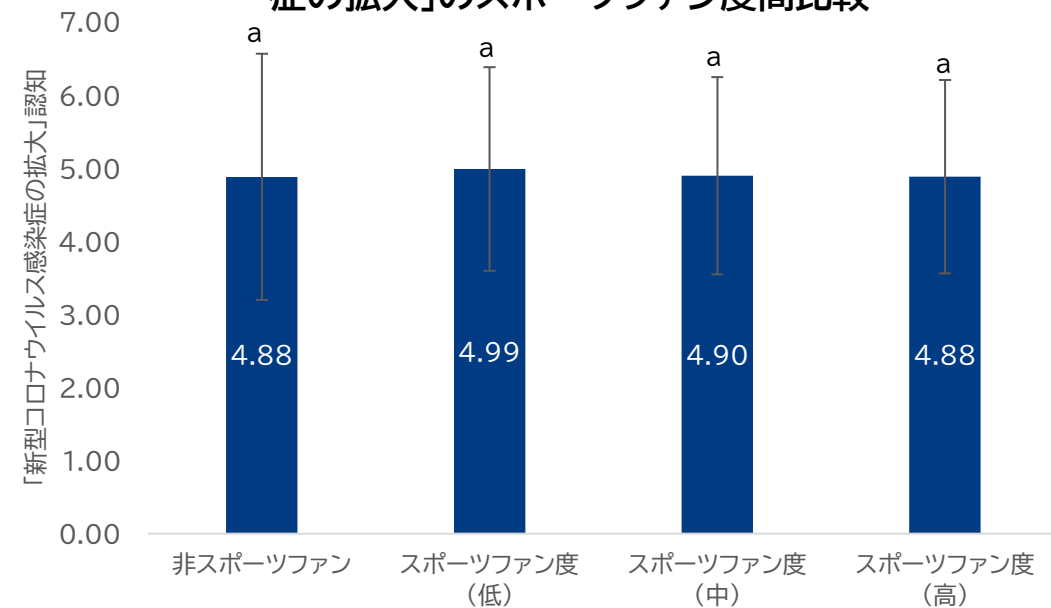
1. 東京2020大会による自身や社会への影響⑭

- 東京2020大会開催による「不安感の増幅」認識にはスポーツファン度で差が見られ、非スポーツファンと比較してスポーツファン度(中)・スポーツファン度(高)の認識が高い
- 東京2020大会開催による「新型コロナウイルスの拡大」認識にはスポーツファン度で差が見られなかった

図表43 東京2020大会による「不安感の増幅」のスポーツファン度間比較



図表44 東京2020大会による「新型コロナウイルス感染症の拡大」のスポーツファン度間比較



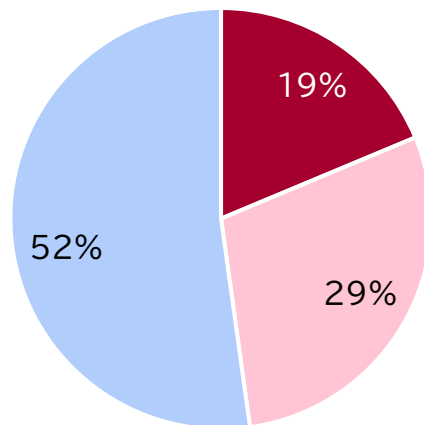
注:比較検定は、一元配置分散分析(Bonferroni多重比較)を用いている。アルファベットは異なる文字間で有意差ありを意味し、a>bである

Ⅱ. 大会の影響(インパクト)と未来社会への貢献(レガシー)

2. 「オリンピック・レガシー」に対する認識①

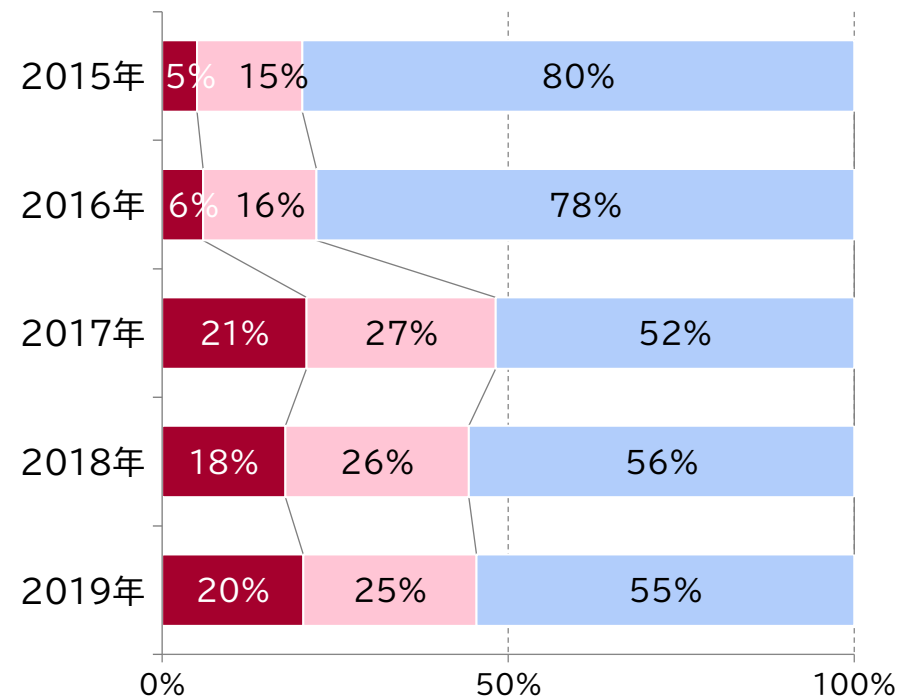
- オリンピック・レガシーという言葉について、(意味も含めて)「知っていた」は19%、「聞いたことがある」は29%
- 「知っていた」と「聞いたことがある」を足し合わせたレガシーの認知度は48%と、過去調査と同水準となった

図表45_レガシー認知



■ 知っていた ■ 聞いたことはあったが、意味は知らなかった ■ 知らなかった
N=3000

図表46_過去調査におけるレガシー認知の推移



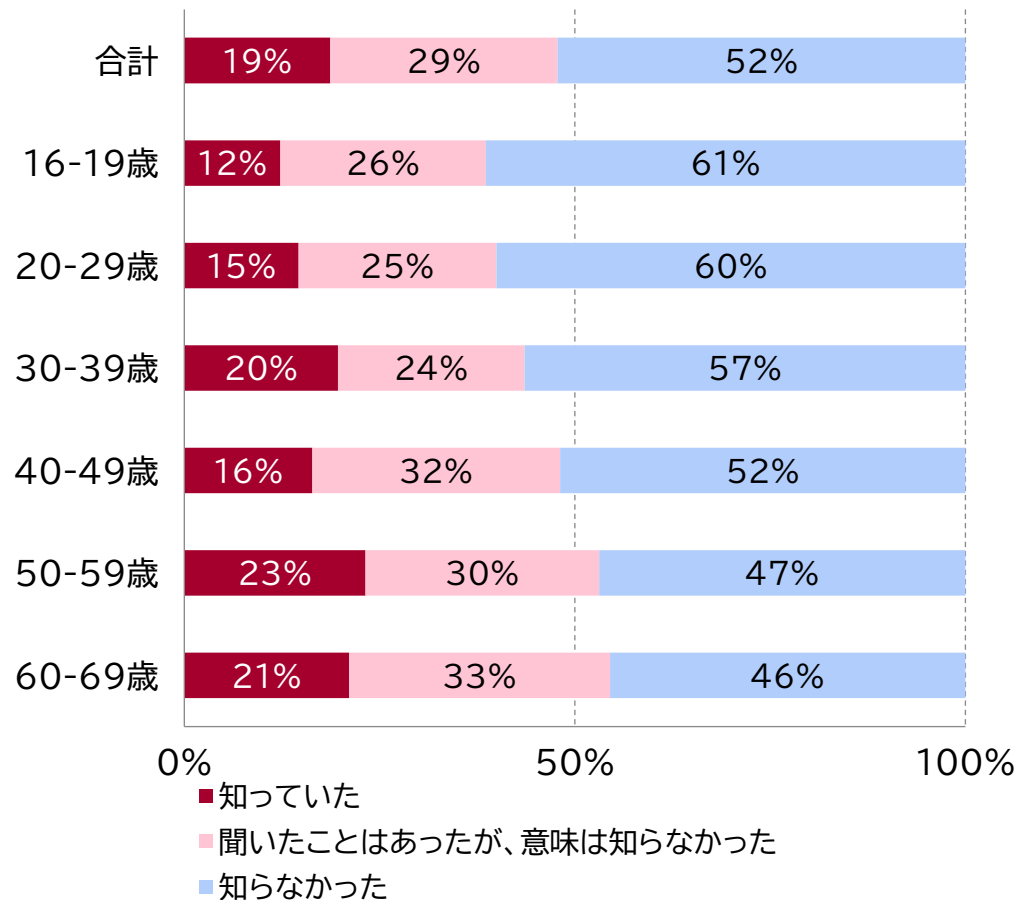
■ 知っていた ■ 聞いたことはあったが、意味は知らなかった ■ 知らなかった

Ⅱ. 大会の影響(インパクト)と未来社会への貢献(レガシー)

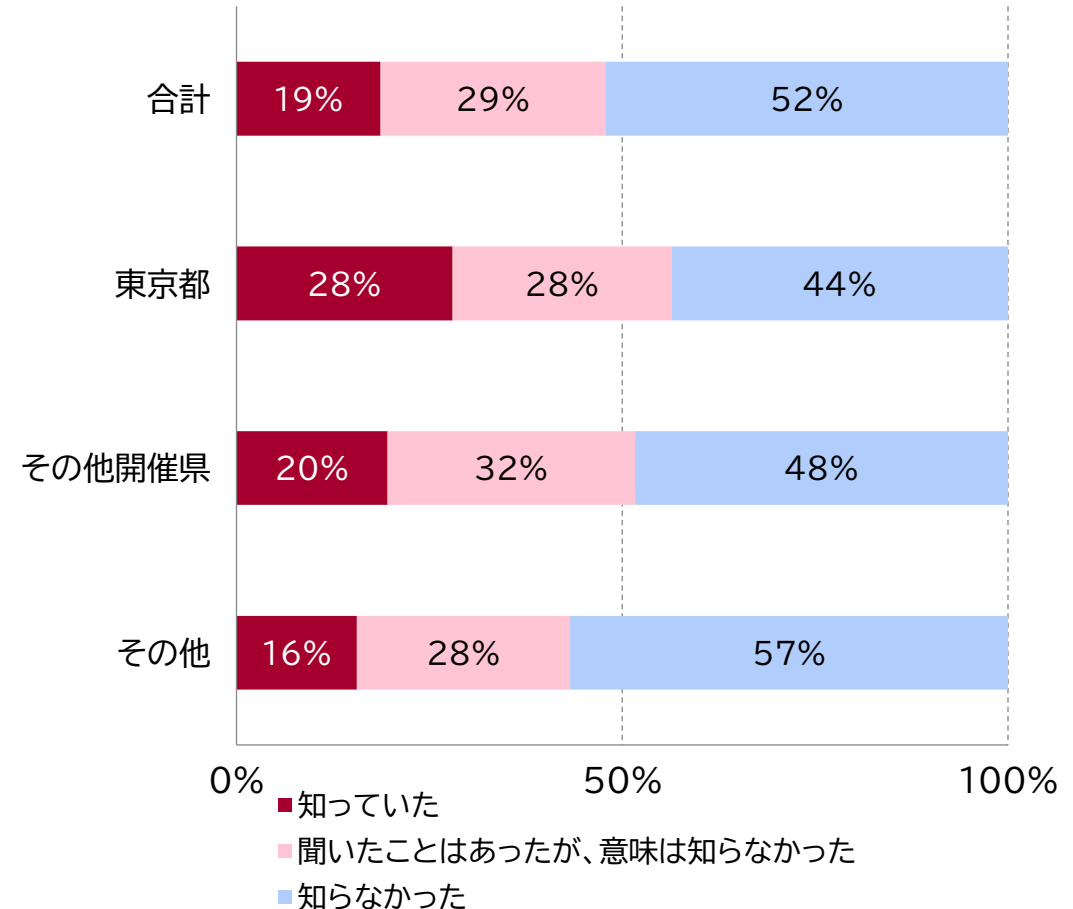
2. 「オリンピック・レガシー」に対する認識②

- 年代別に見ると、年代が高くなるほど認知度が高くなる傾向がある
- 居住地別では、東京都でレガシーの認知度が高い

図表47_年代×レガシー認知



図表48_居住地×レガシー認知

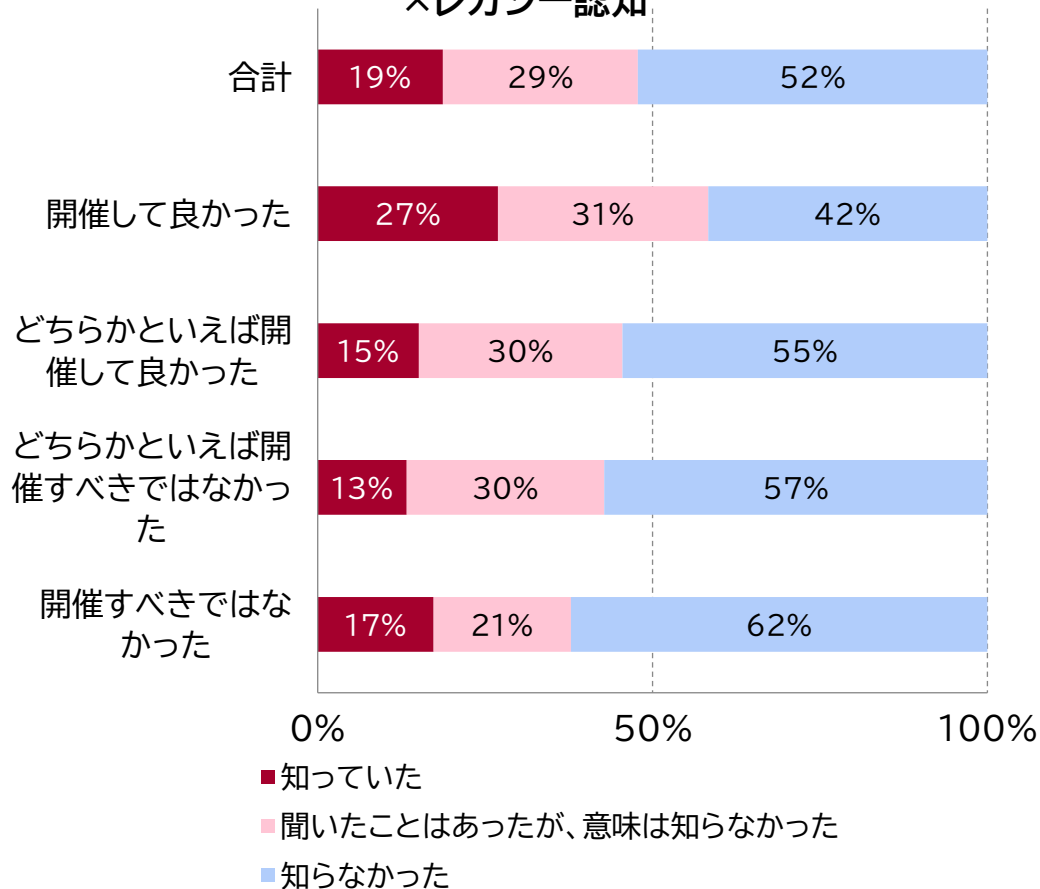


Ⅱ. 大会の影響(インパクト)と未来社会への貢献(レガシー)

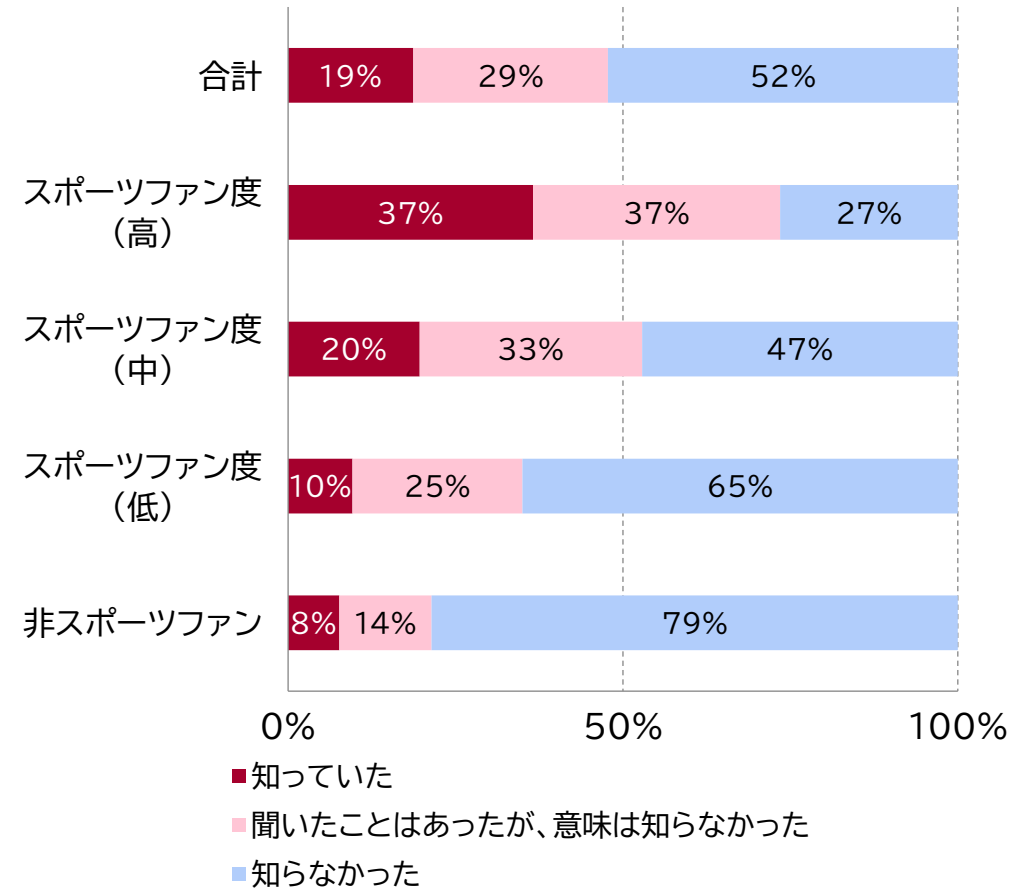
2. 「オリンピック・レガシー」に対する認識③

□ 東京2020大会開催肯定派、スポーツファンにおいて、レガシーの認知度が高い

図表49_東京2020大会(オリンピック)賛否
×レガシー認知



図表50_スポーツファン度×レガシー認知

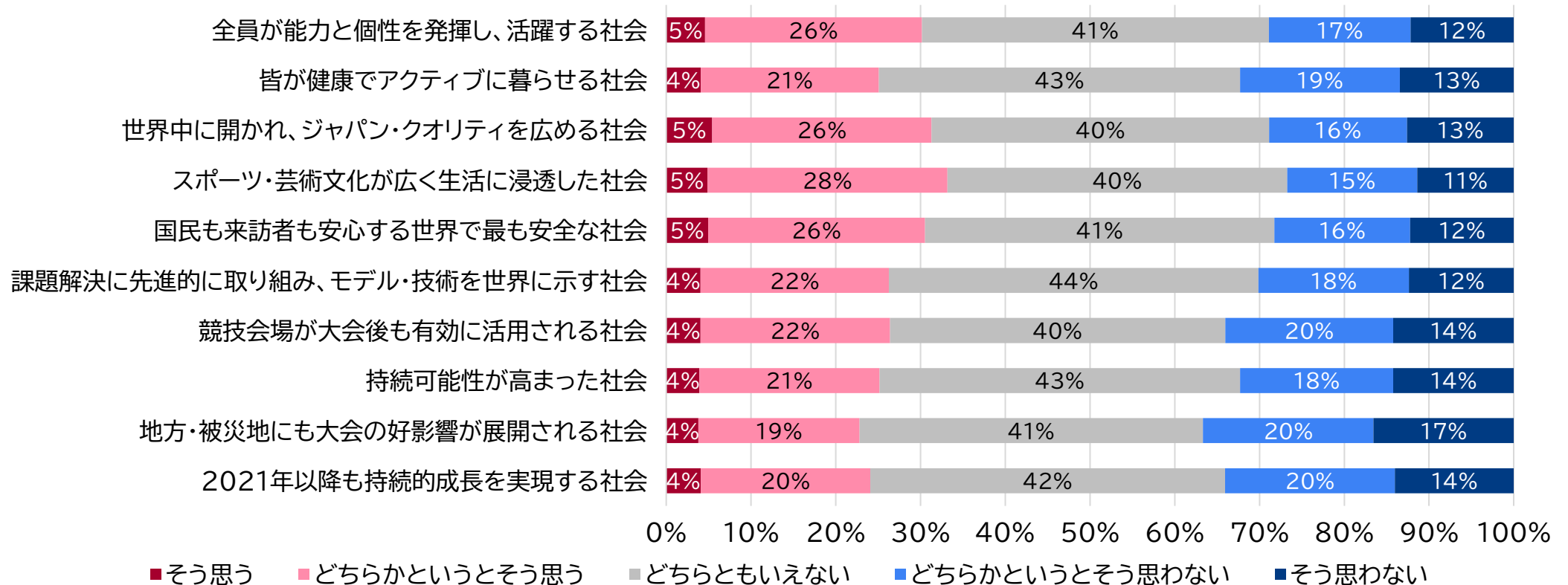


Ⅱ. 大会の影響(インパクト)と未来社会への貢献(レガシー)

3. 東京2020大会がレガシー創出のきっかけになったか

- 東京2020大会が未来社会に向けたレガシー創出にきっかけになったとする割合は、各項目とも3割程度にとどまる
- その中でもきっかけになったという割合が高いのが「スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会」。他方、「地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会」はレガシー創出のきっかけになったという割合が低い

図表51_東京2020大会が、将来に向けて以下の社会の実現に向けたきっかけになったか

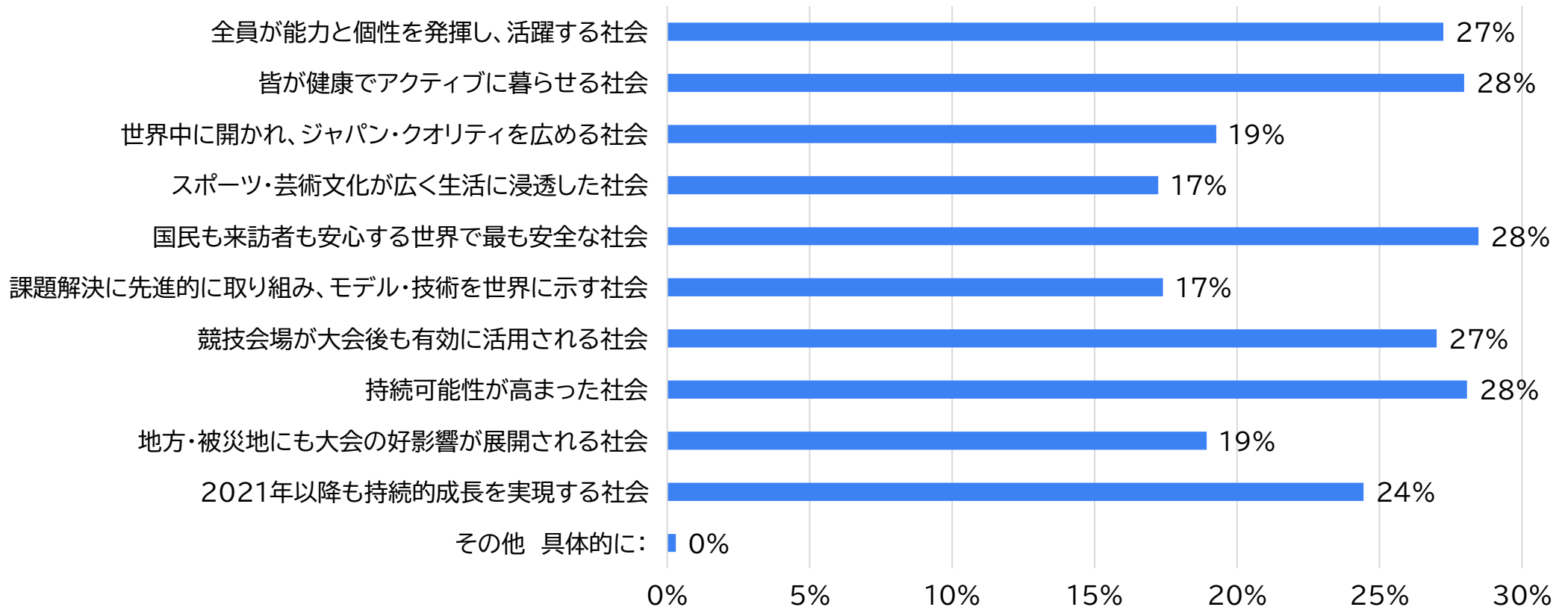


Ⅲ. 将来に向けて

1. 今後実現を目指すべきレガシー①

- 東京2020大会のレガシーとして今後実現を目指すべきものを見ると、「健康でアクティブに暮らせる社会」「世界で最も安全な社会」「持続可能性が高まった社会」「全員が能力と個性を発揮し活躍する社会」「競技会場が大会後も有効に活用される社会」が上位となっている

図表52_東京2020大会のレガシーとして、今後、重点的に実現を目指すべきだと思う項目



Ⅲ. 将来に向けて

1. 今後実現を目指すべきレガシー②

例	検定結果
50%	有意に高い(間違え確率5%以下)
50%	有意に高い(間違え確率1%以下)
50%	有意に低い(間違え確率5%以下)
50%	有意に低い(間違え確率1%以下)

- 属性別に見ると、60代で健康、安全、大会開催肯定派でジャパングオリティやスポーツ・芸術文化の浸透、レガシーを理解している人で課題解決モデル提示、競技会場の有効活用、持続可能性をあげる人が相対的に多くなっている

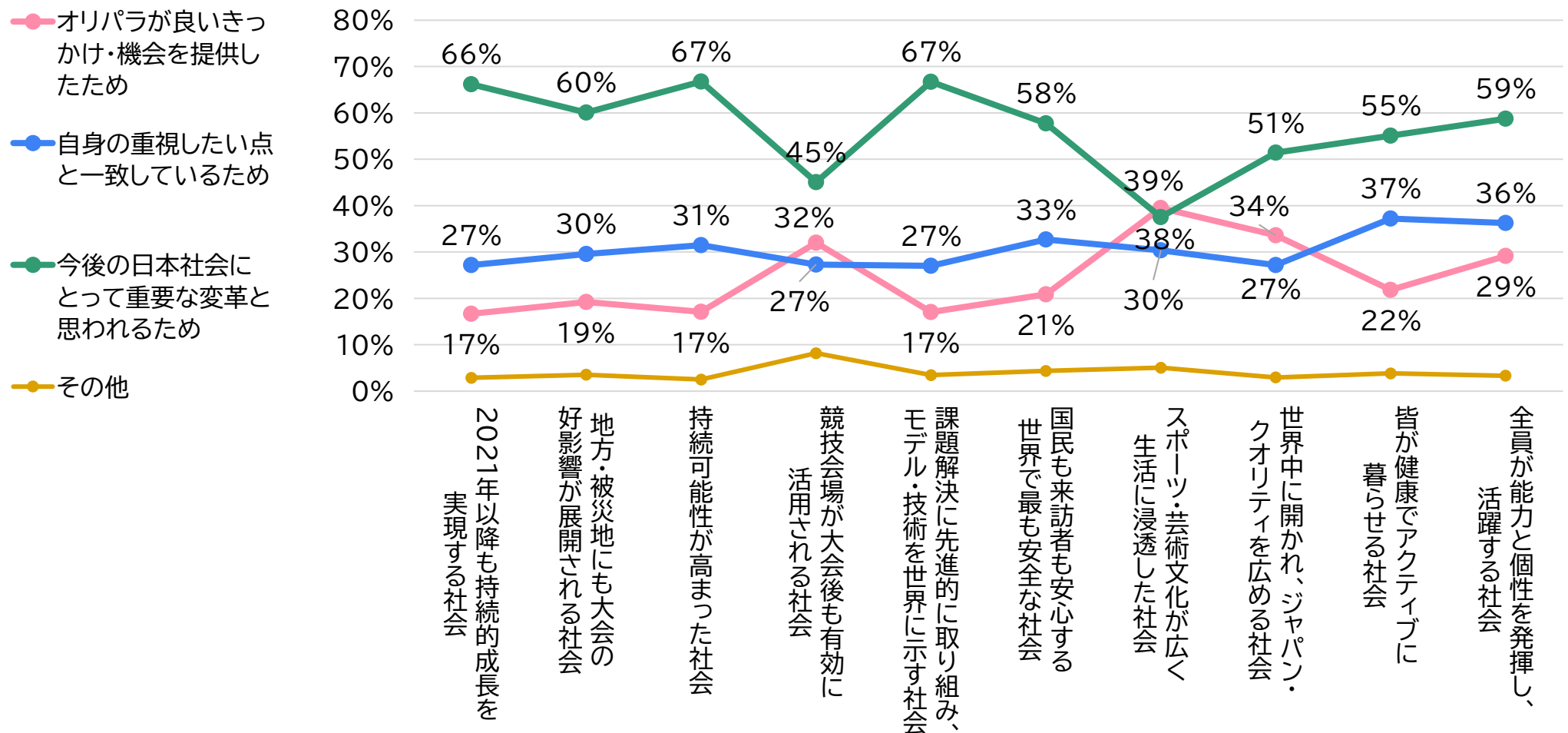
図表53 各属性×今後実現を目指すべきレガシー

	合計	年代						居住地			コロナの影響(収入面)					オリンピック開催賛否				レガシー認知		
		16-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	東京都	その他開催県	その他	むしろ良い影響があった	全く悪影響はなかった	あまり悪影響はなかった	ある程度悪影響があった	深刻な悪影響があった	開催して良かった	どちらかといえば開催して良かった	どちらかといえば開催すべきではなかった	開催すべきではなかった	知っていた	聞いたことはあったが、意味は知らなかった	知らなかった
N数	3,000	171	458	519	672	591	589	468	879	1,653	52	491	1,488	731	238	911	1,110	535	444	561	872	1,567
全員が能力と個性を發揮し、活躍する社会	27%	35%	26%	29%	25%	29%	27%	27%	26%	28%	33%	29%	28%	27%	20%	27%	30%	27%	20%	29%	29%	26%
皆が健康でアクティブに暮らせる社会	28%	26%	25%	28%	25%	28%	34%	29%	31%	26%	25%	27%	29%	25%	32%	26%	28%	30%	29%	22%	28%	30%
世界中に開かれ、ジャパングオリティを広める社会	19%	21%	17%	17%	18%	21%	22%	17%	19%	20%	12%	20%	19%	21%	19%	28%	17%	16%	10%	22%	19%	19%
スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会	17%	18%	18%	15%	18%	17%	19%	19%	17%	17%	21%	16%	18%	17%	16%	25%	17%	10%	12%	19%	20%	15%
国民も来訪者も安心する世界で最も安全な社会	29%	23%	26%	26%	30%	27%	34%	27%	28%	29%	37%	31%	27%	29%	27%	29%	30%	29%	24%	28%	26%	30%
課題解決に先進的に取り組み、モデル・技術を世界に示す社会	17%	17%	19%	17%	16%	17%	18%	19%	15%	18%	21%	19%	17%	17%	15%	17%	18%	16%	17%	22%	17%	16%
競技会場が大会後も有効に活用される社会	27%	20%	19%	26%	29%	31%	31%	27%	29%	26%	27%	27%	26%	28%	32%	27%	29%	25%	23%	32%	32%	23%
持続可能性が高まった社会	28%	32%	27%	25%	27%	30%	29%	31%	26%	29%	27%	31%	27%	30%	23%	26%	29%	29%	27%	33%	29%	26%
地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会	19%	21%	16%	19%	21%	20%	18%	17%	18%	20%	10%	18%	20%	18%	24%	18%	18%	20%	21%	14%	20%	21%
2021年以降も持続的成長を実現する社会	24%	20%	26%	27%	24%	23%	24%	24%	24%	25%	14%	24%	23%	28%	26%	25%	24%	26%	22%	26%	24%	24%

2. レガシー実現を目指すべき理由

- 東京2020大会のレガシー実現を目指すべき理由の上位は「今後の日本社会にとって重要な変革と思われるため」

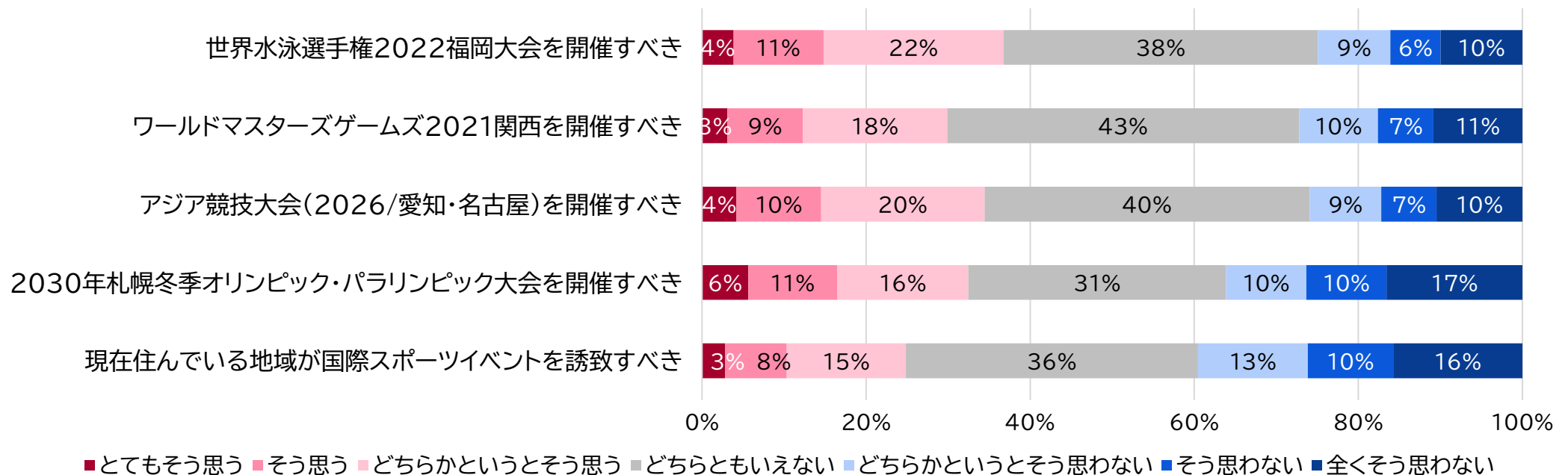
図表54 重点的に実現を目指すべきと思った理由



3. 将来のスポーツ大会誘致・開催の賛否①

- 将来のスポーツ大会の誘致・開催賛成者は3～4割程度。2030年札幌冬季大会の誘致賛成者は33%。居住地域への国際スポーツイベント誘致賛成者は26%にとどまる

図表55__スポーツ大会の誘致・開催について

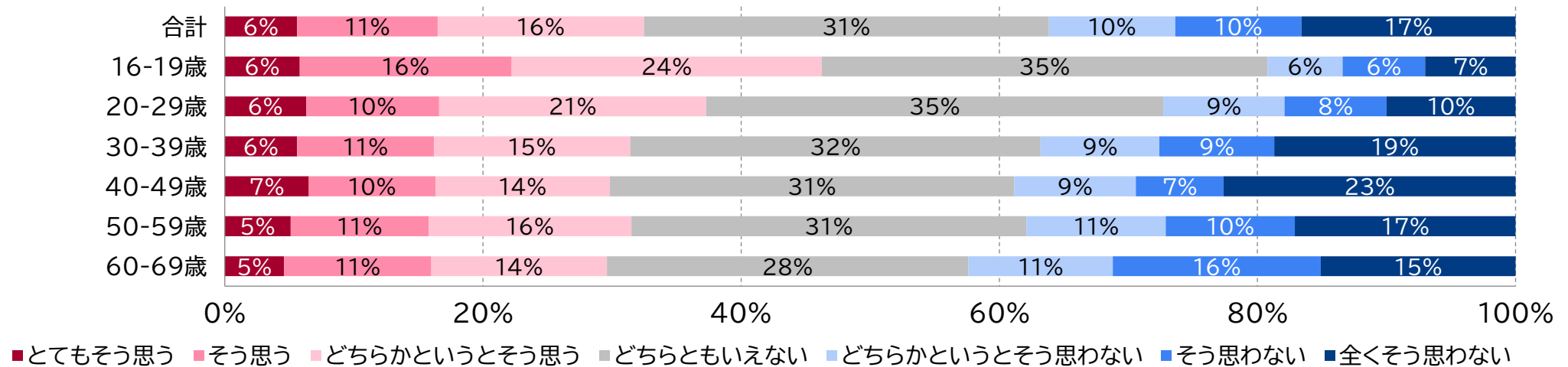


N=3000

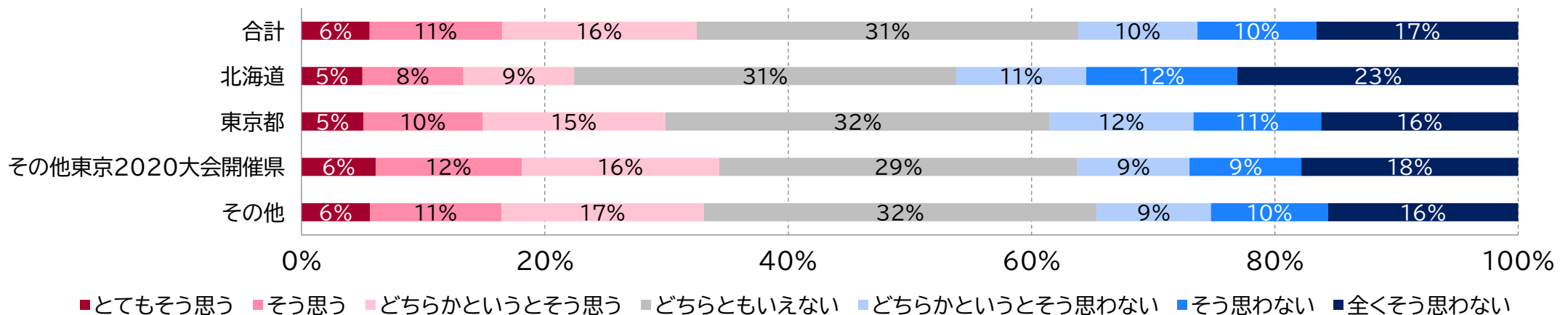
3. 将来のスポーツ大会誘致・開催の賛否②

- 2030年札幌冬季大会について見ると、年代別では、10代で誘致肯定者が多い。
居住地別では、北海道居住者で誘致否定者が多い

図表56_年代×「2030年札幌冬季大会」を誘致すべきだと思う



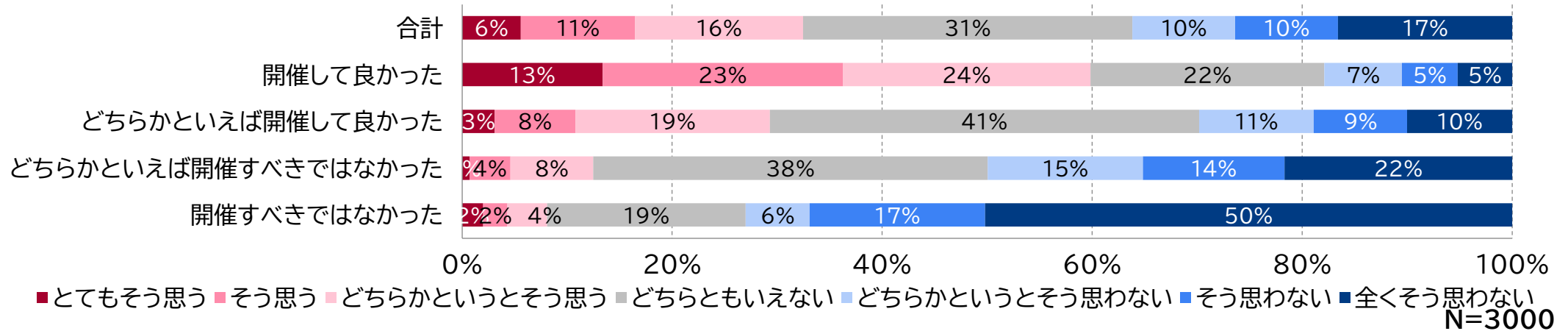
図表57_居住地×「2030年札幌冬季大会」を誘致すべきだと思う



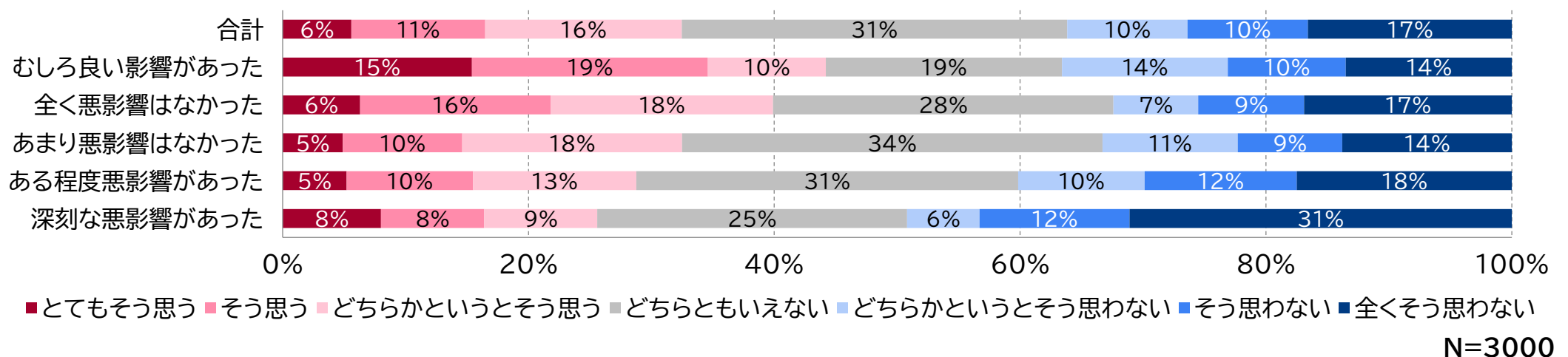
3. 将来のスポーツ大会誘致・開催の賛否③

- 東京2020大会開催肯定者、新型コロナ感染症拡大でむしろ良い影響があった人において、2030年札幌冬季大会の誘致肯定者が多い

図表58_東京2020大会(オリンピック)賛否×「2030年札幌冬季大会」を誘致すべきだと思う



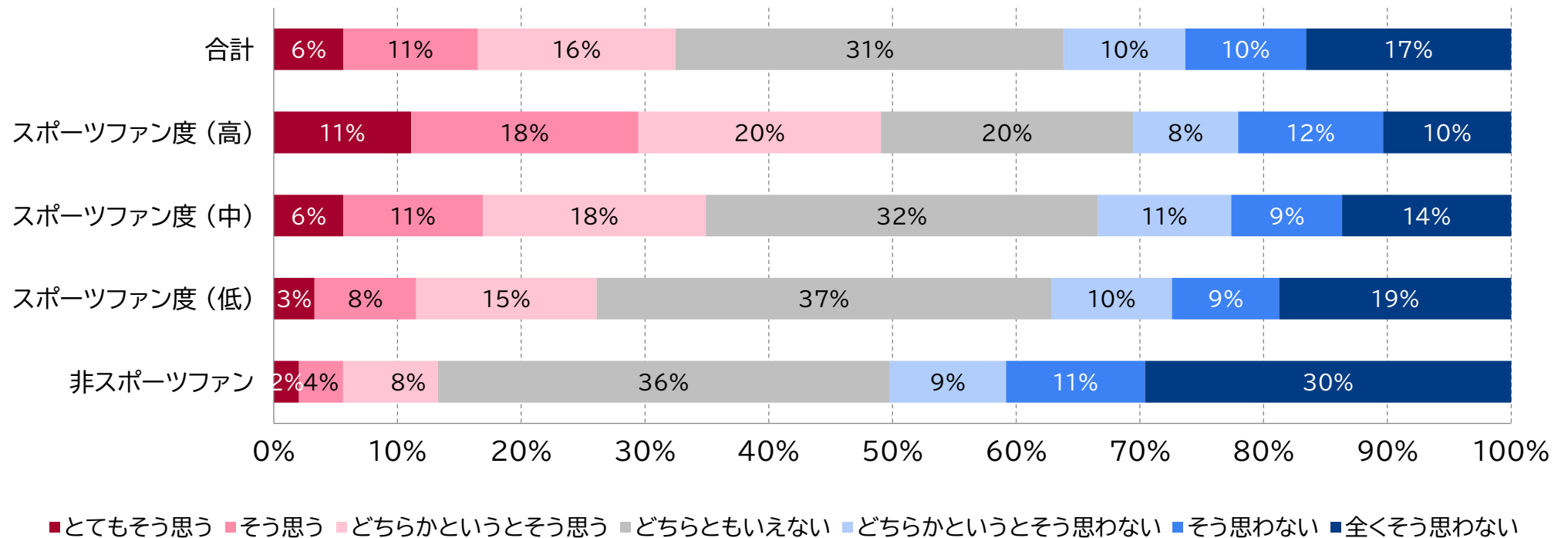
図表59_新型コロナの影響(収入面)×「2030年札幌冬季大会」を誘致すべきだと思う



3. 将来のスポーツ大会誘致・開催の賛否④

□ スポーツファンにおいて、誘致肯定者が多い

図表60_ スポーツファン度×「2030年札幌冬季大会」を誘致すべきだと思う



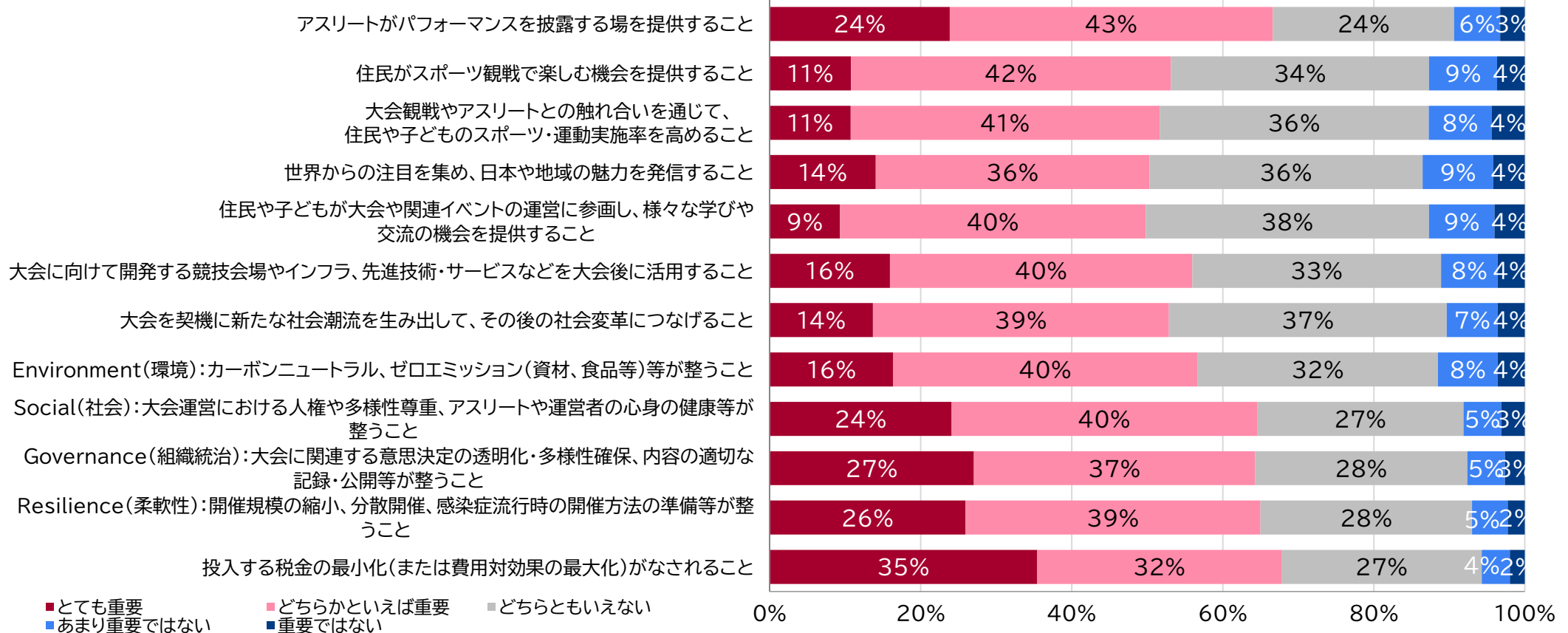
N=3000

Ⅲ. 将来に向けて

4. スポーツ大会を誘致・開催する際に求める目的・条件①

- スポーツ大会の誘致・開催の目的としては「アスリートがパフォーマンスを披露する場を提供」が最も多く、ハード・ソフト両面でのレガシー活用や社会変革への貢献等も多い。開催条件としては「投入する税金の最小化」が最も多く、ESGR(環境・社会・ガバナンス・レジリエンス)への配慮も重視されている。

図表61_あなたの意向とは関係なく、税金を投入して世界的なスポーツ大会を誘致・開催することになった場合、その目的・条件として重要なのは何だと思えますか

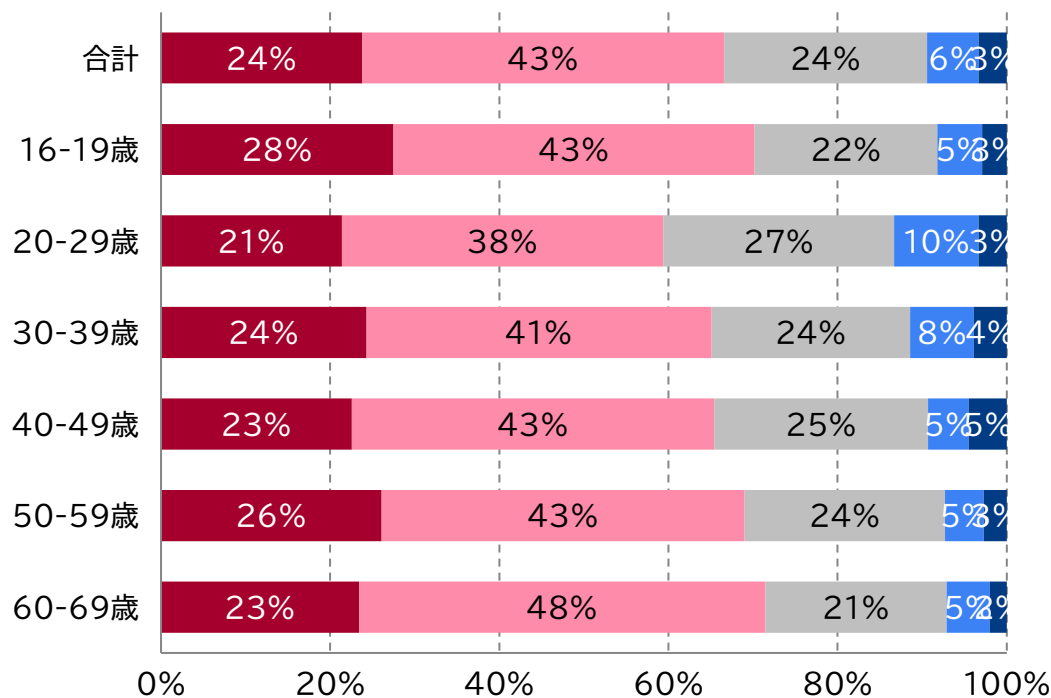


Ⅲ. 将来に向けて

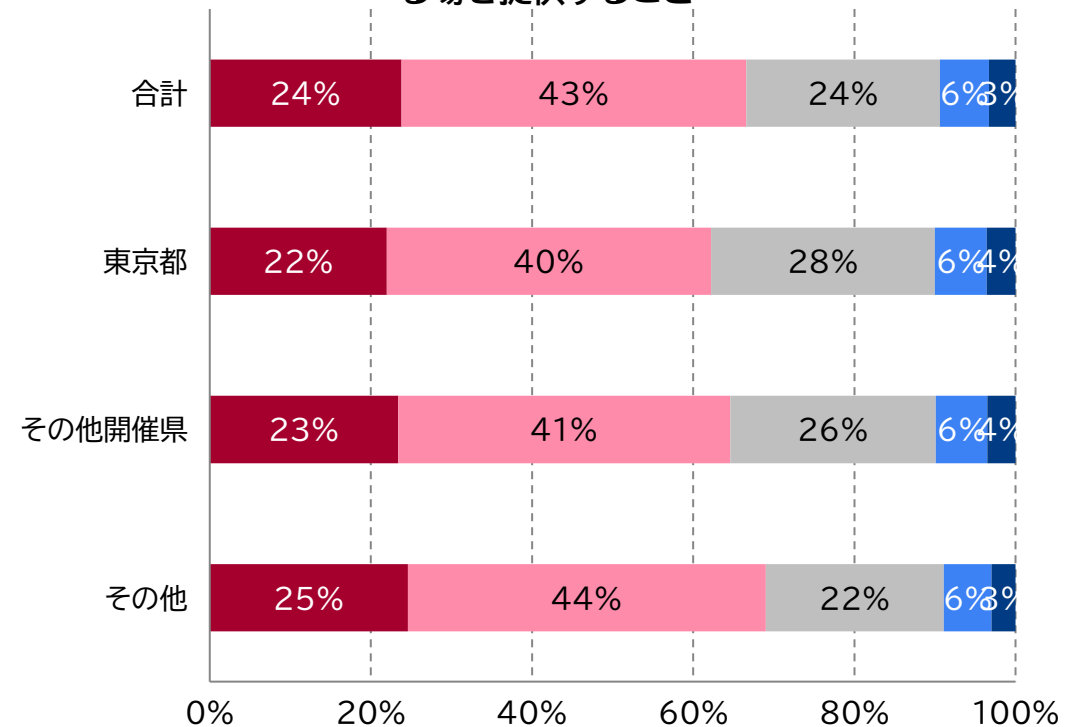
4. スポーツ大会を誘致・開催する際に求める目的・条件②

- スポーツ大会の誘致・開催の目的として「アスリートがパフォーマンスを披露する場を提供」をととても重要と回答した割合が相対的に多いのは、東京2020大会開催賛成派、新型コロナ感染症拡大でむしろ良い影響があった人、レガシーを理解している人、スポーツファンである

図表62 年代×アスリートがパフォーマンスを披露する場を提供すること



図表63 居住地×アスリートがパフォーマンスを披露する場を提供すること



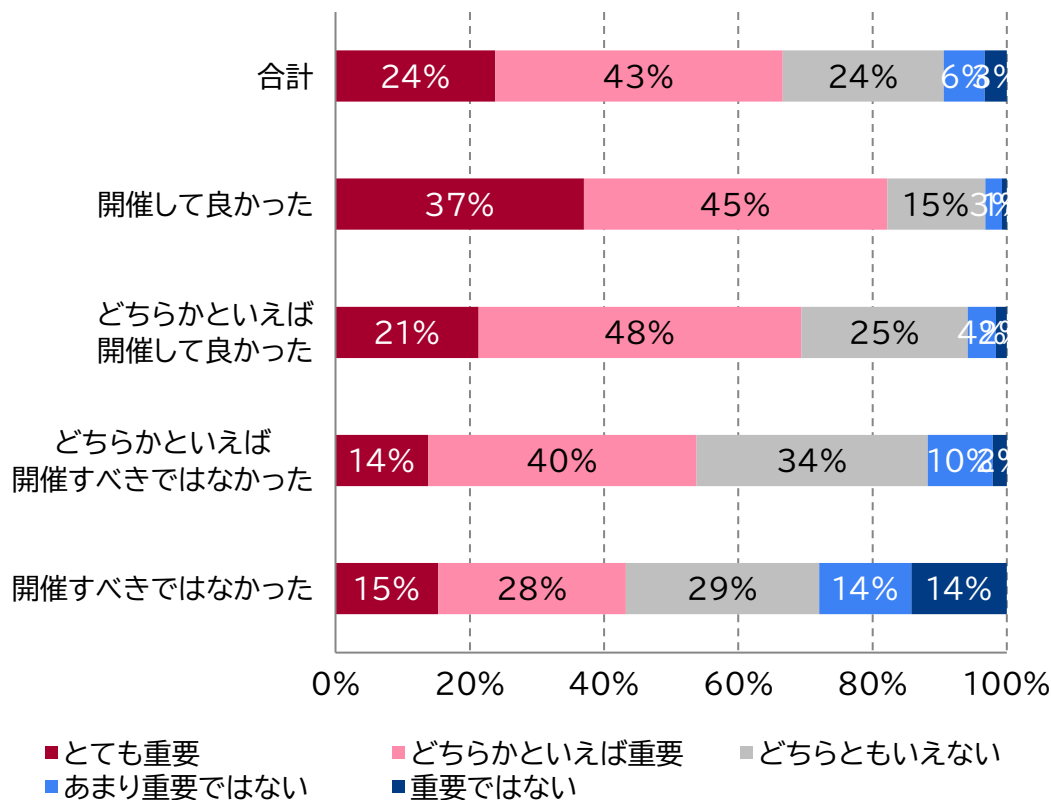
■ とても重要 ■ どちらかといえば重要 ■ どちらともいえない
 ■ あまり重要ではない ■ 重要ではない

■ とても重要 ■ どちらかといえば重要 ■ どちらともいえない
 ■ あまり重要ではない ■ 重要ではない

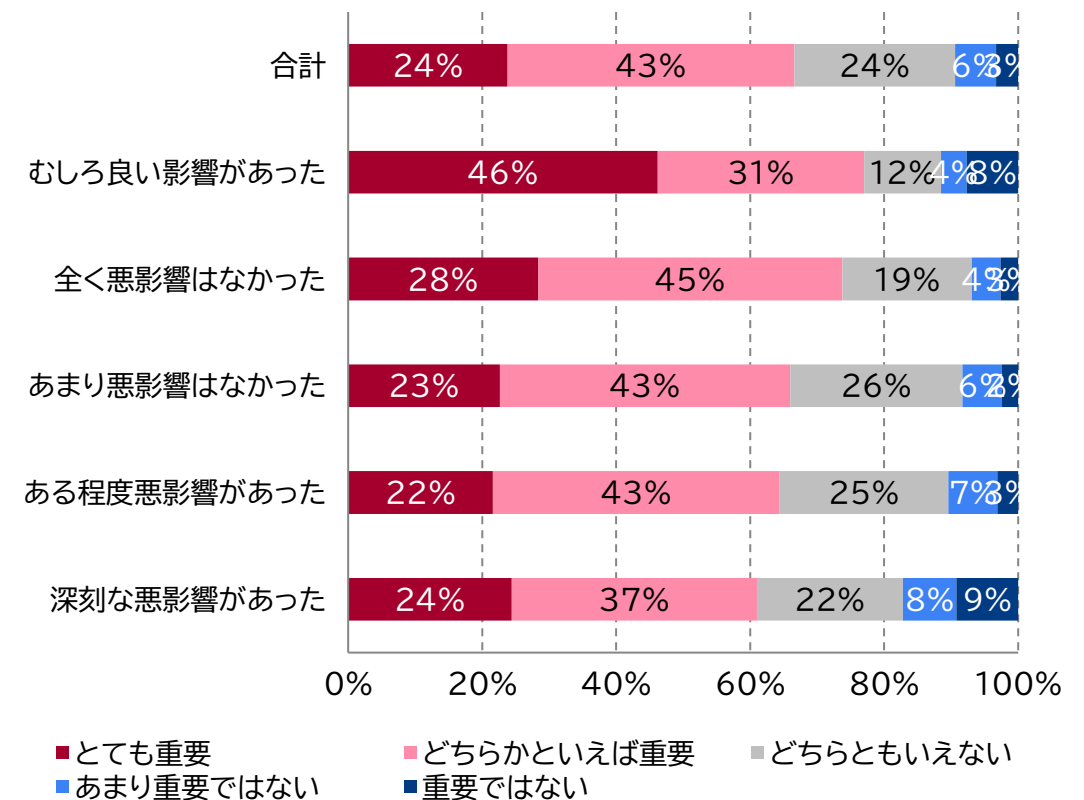
Ⅲ. 将来に向けて

4. スポーツ大会を誘致・開催する際に求める目的・条件③

図表64 東京2020大会賛否×アスリートがパフォーマンスを披露する場を提供すること



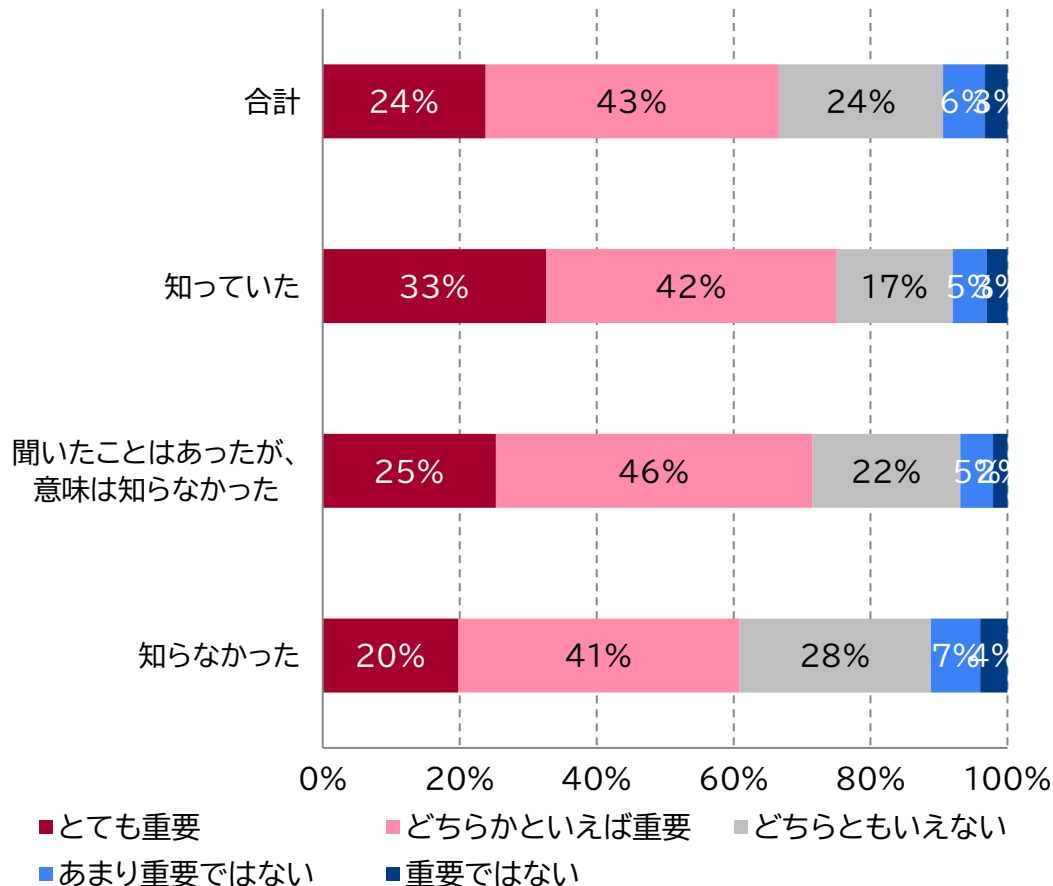
図表65 新型コロナの影響(収入面)×アスリートがパフォーマンスを披露する場を提供すること



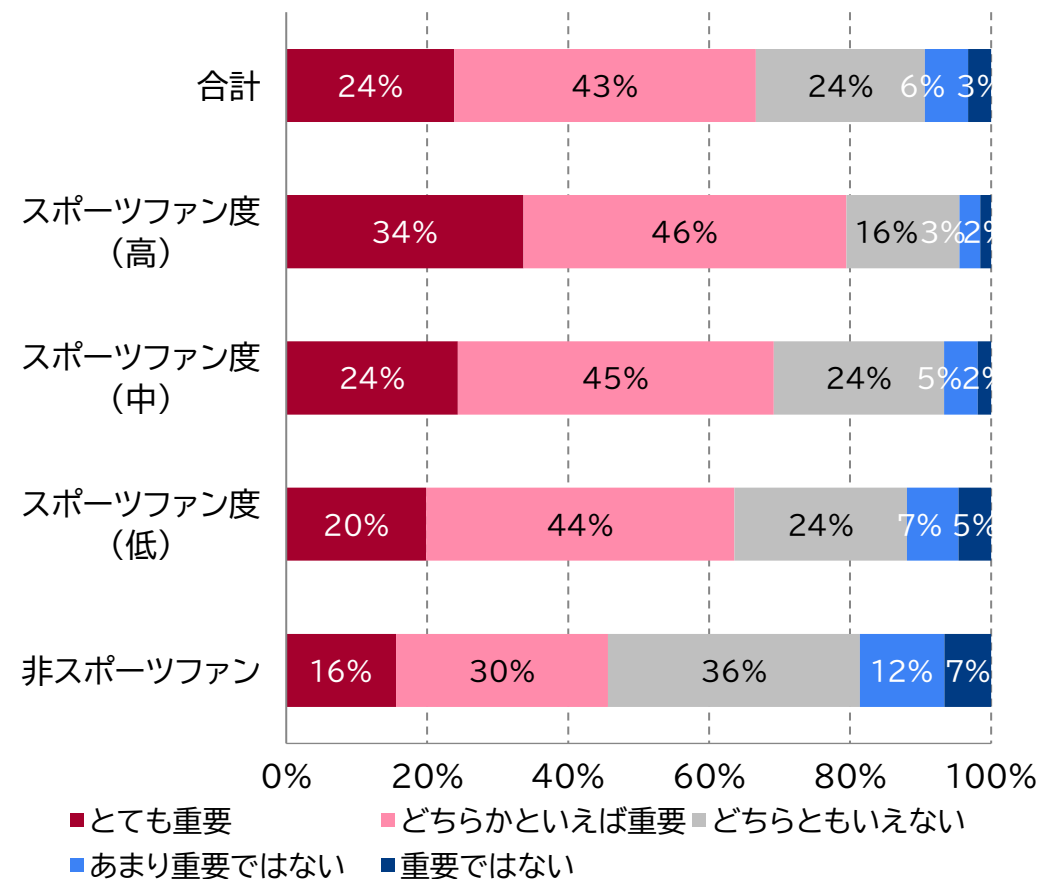
Ⅲ. 将来に向けて

4. スポーツ大会を誘致・開催する際に求める目的・条件④

図表66_レガシー認知×アスリートがパフォーマンスを披露する場を提供すること



図表67_スポーツファン度×アスリートがパフォーマンスを披露する場を提供すること

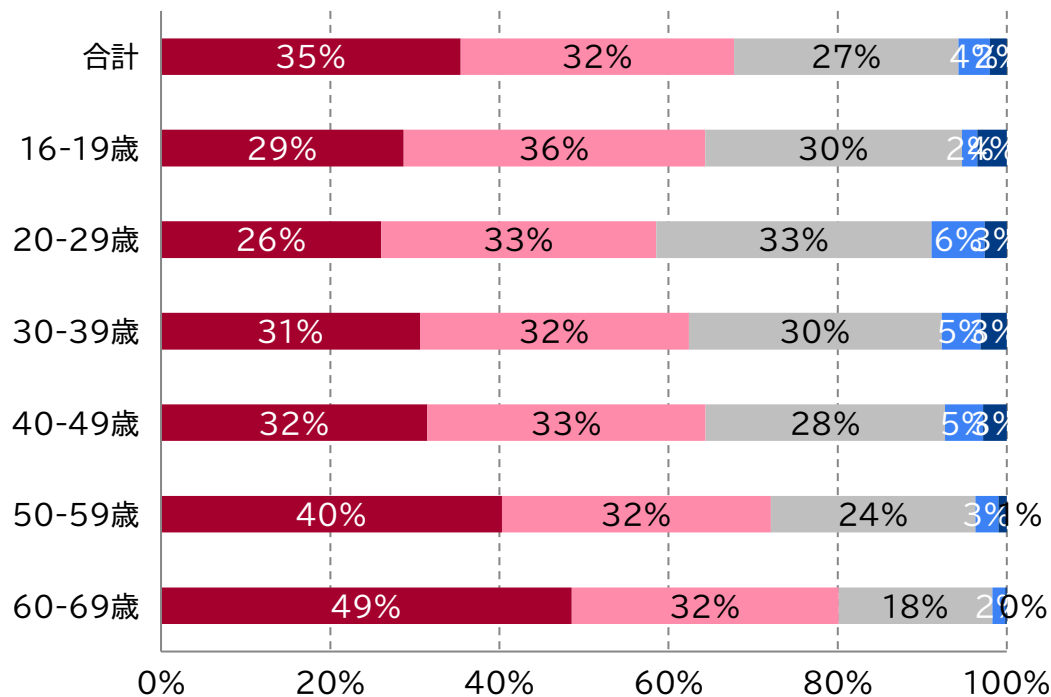


Ⅲ. 将来に向けて

4. スポーツ大会を誘致・開催する際に求める目的・条件⑤

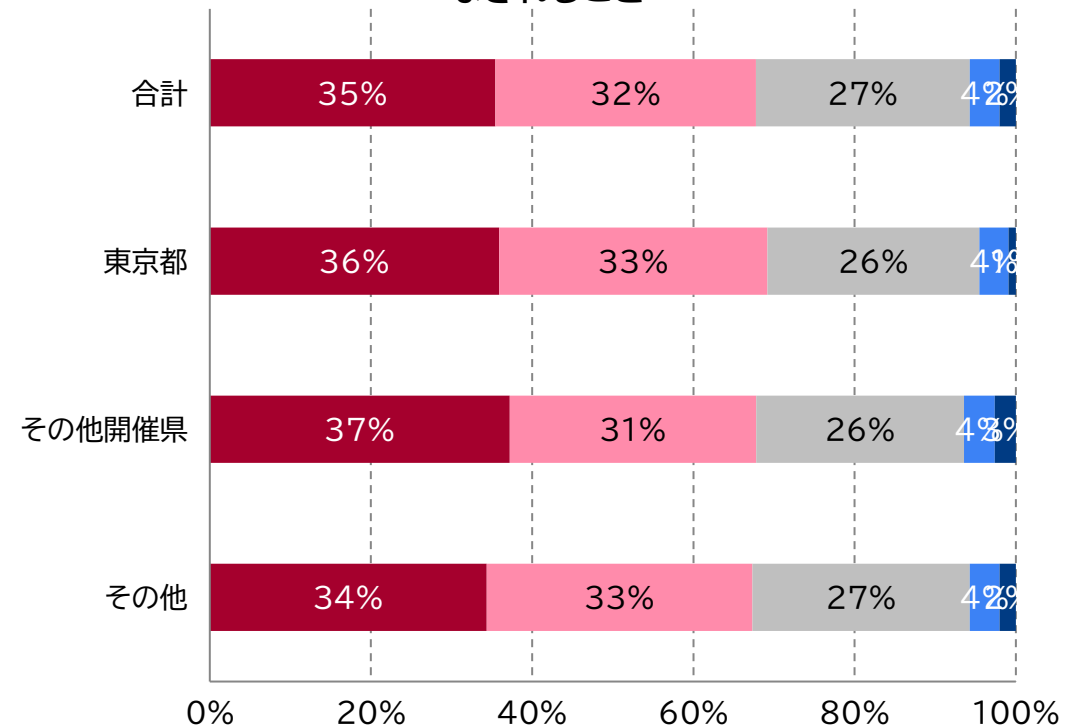
- スポーツ大会の誘致・開催の条件として「投入する税金の最小化」をととても重要と回答した割合が相対的に多いのは、60代、東京2020大会開催否定派、レガシーを理解している人である

図表68 年代×投入する税金の最小化がなされること



■ とても重要 ■ どちらかといえば重要 ■ どちらともいえない
■ あまり重要ではない ■ 重要ではない

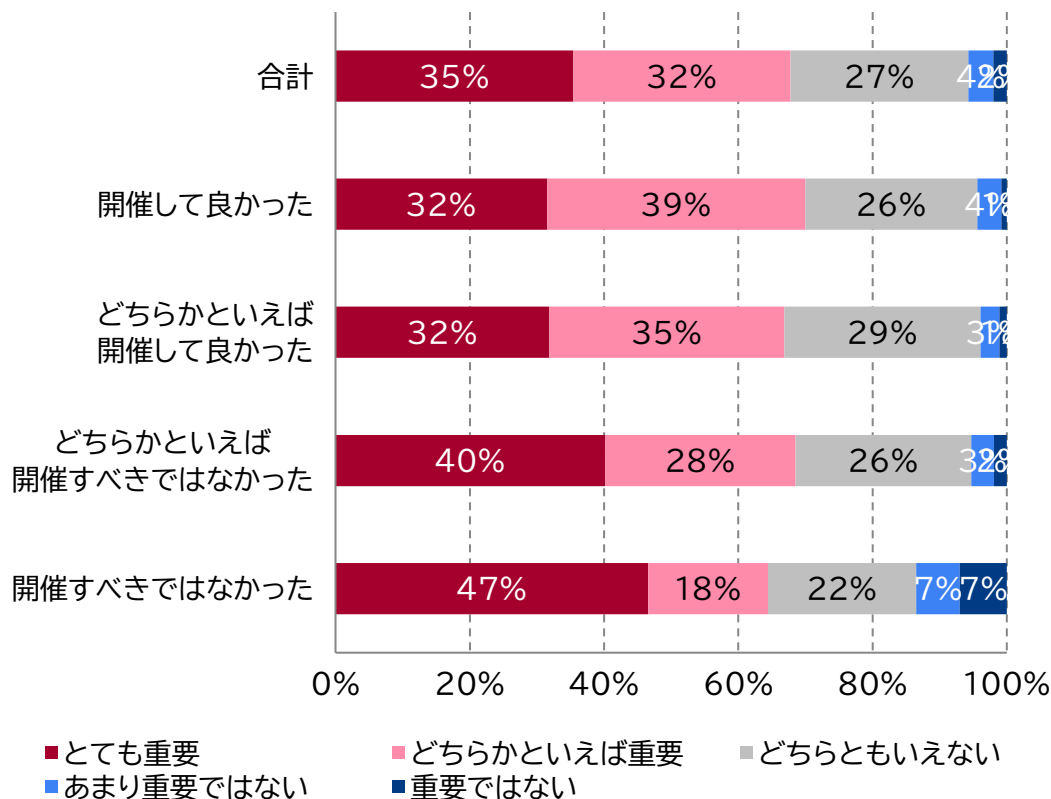
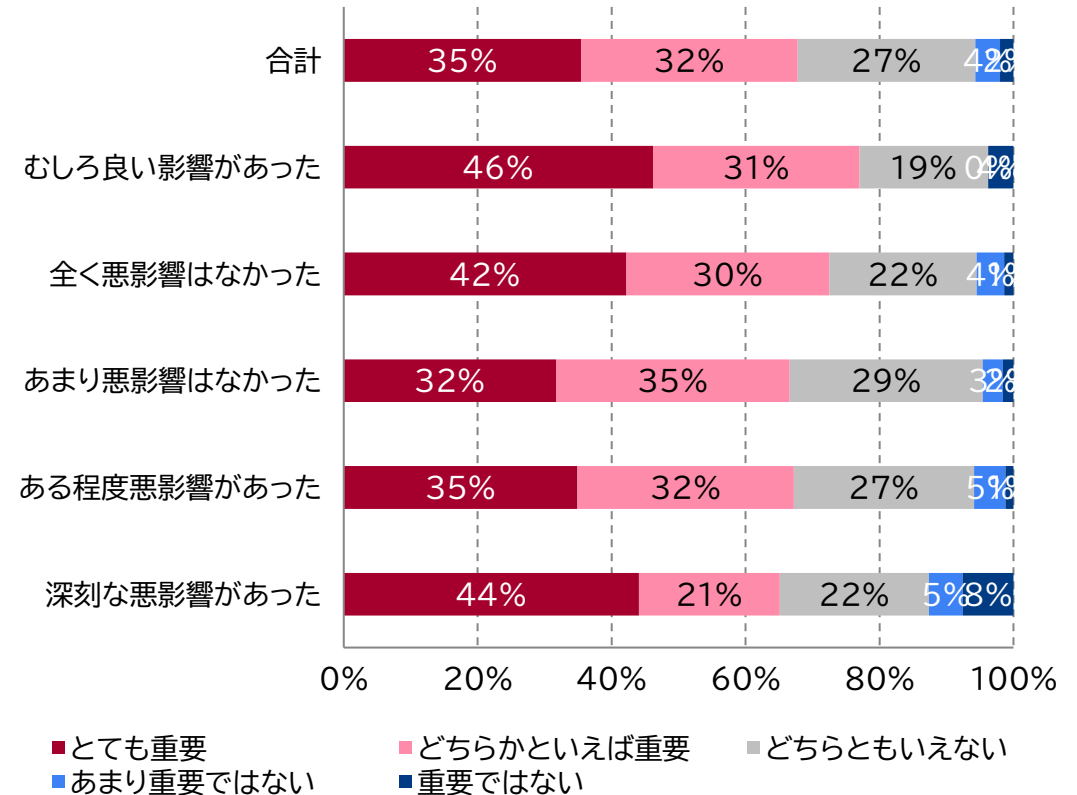
図表69 居住地×投入する税金の最小化がなされること



■ とても重要 ■ どちらかといえば重要 ■ どちらともいえない
■ あまり重要ではない ■ 重要ではない

Ⅲ. 将来に向けて

4. スポーツ大会を誘致・開催する際に求める目的・条件⑥

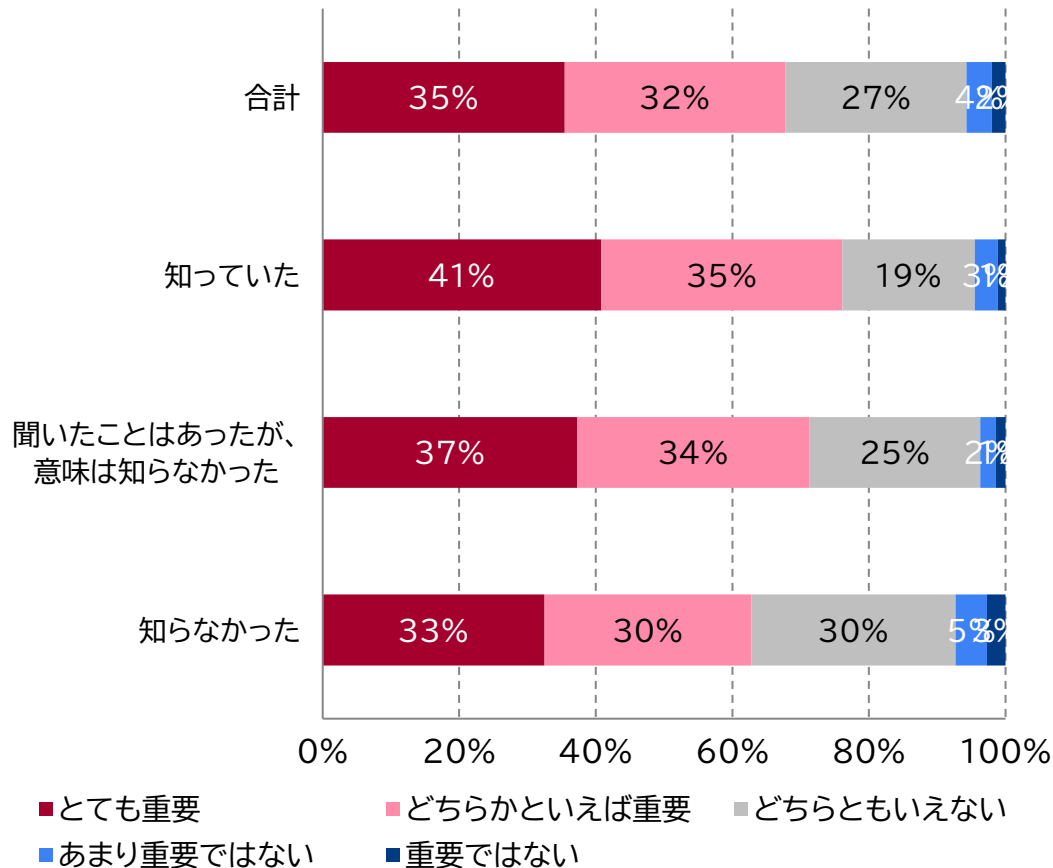
図表70_東京2020大会賛否×投入する税金の最小化
がなされること図表71_新型コロナの影響(収入面)×投入する税金の
最小化がなされること

N=3000

Ⅲ. 将来に向けて

4. スポーツ大会を誘致・開催する際に求める目的・条件⑦

図表72_レガシー認知×投入する税金の最小化がなされること



図表73_スポーツファン度×投入する税金の最小化がなされること

